

授業科目	仏教学研究基礎1（春期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	南 宏信		シラバスグループ	BD0219	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	浄土学の基礎ならびに研究の回顧と展望				
■授業の概要	専門的に浄土学、および法然浄土教の研究を進めるにあたって把握しておくべき事柄について講義する。 具体的には以下の通り。 ・浄土教の教理・歴史・術語 ・浄土教の研究領域、研究方法、研究対象となる文献 ・浄土教研究史の回顧と展望 ・大乘仏教、中国・日本仏教それぞれの教義・教理史と、浄土教や法然との関係性				
■授業の目的・ねらい	授業の目的は以下の通り 1) 浄土教の基礎概念と教理史の把握できるようになる。 2) 浄土学、法然浄土教の研究史について理解できるようになる。 3) 浄土学研究における課題を指摘できるようになる。 以上の目的を達成することを、自身の研究の進展につなげていくことをねらいとする。				
■到達目標	1) 浄土教の基礎概念と教理史を把握している。 2) 浄土学、法然浄土教の研究史について理解している。 3) 浄土学研究における課題を指摘できる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	100				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	仏教学研究基礎2（春期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	伊藤 真宏		シラバスグループ	BD0319	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	日本仏教における浄土教思想の変遷				
■授業の概要	<p>現在では仏教学研究分野はインド・中国・日本など地域によって細分化されている。ただし、いずれの分野であってもそれぞれの言語・文化的背景に関わる知識の習得が不可欠であるのは言を俟たない。本講義では日本仏教における浄土教思想の歴史を、日本仏教史の特殊性を眺めながら解説する。最終的に日本浄土教の結実ともいえる法然思想の理解を深めたい・仏教の一類型を学ぶことで、研究方法論にも言及し、自らの研究に資するべく学んでいく。</p>				
■授業の目的・ねらい	<p>日本仏教史の研究成果を学習しつつ日本における浄土教思想がどのように変遷したかを学ぶことによって、仏教や浄土教の思想がいかに日本人の思想や心情に影響しているかを理解し、自らの研究に反映できる研究方法を身に着けることを狙う。</p>				
■到達目標	<p>仏教研究の方法論を踏まえた上で、自身の専門領域における具体的な方法論を提示できるようになる。</p>				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	60%				
・授業内発表	40%				
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				
・その他	0%				

授業科目	仏教学研究基礎3（春期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	吹田 隆徳		シラバスグループ	BD0419	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	仏教学の研究方法を学ぶ
---------	-------------

■授業の概要	<p>仏教学の研究において、研究対象の研究史の把握と原典の読解は必要不可欠です。 各自が論文を作成する際には、先行研究を把握すること、また先行研究を批判的に読み問題の所在を明らかにすること、問題解決のために原典を精読し問題を解決することが求められます。 そこで本授業では、いくつかの仏教学の論文を配布し、その論文の精読を行います。 精読の際には、参考文献として掲載されている学術論文や原典を図書館で検索・入手し、 内容を読解したうえで、資料解釈の妥当性や論理性的の検討について議論する形で授業を進めていきます。</p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>研究論文を批判的に読み、引用されている文献資料や作品の所在を自ら探し出し、議論の材料とすることにより、研究を推し進めるうえで必要な基礎知識の習得を目指します。</p>
------------	--

■到達目標	<p>①論文を検索・入手できる ②論文を批判的に読むことができる ③論文に引用されている文献資料を検索・入手できる ④先行研究の読解から、論点を整理し、問題の所在を明らかにすることができる</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	50%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	50%	
・その他	0%	

授業科目	法然教学演習1 (夏期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	齋藤 蒙光		シラバスグループ	BD2129	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『選択本願念仏集』第八・九 (三心・四修) 章を読む
---------	----------------------------

■授業の概要	法然(1133?1212)の主著『選択本願念仏集』第八章および第九章を講読しながら、法然の専修念仏の立場の理解を深めます。その際、受講生が次の諸点を事前に整理しておくことを前提とします。 (1) 関連文献の紹介、(2) 『選択集』撰述の経緯、(3) 『選択集』の構造と概要、(4) 浄土三部経、特に『無量寿経』冒頭の内容、(5) 法然への評価、(6) 法然の「偏依善導一師」という立場、(7) 浄土宗を開く必要性 授業では、受講生が漢文の訓読、現代語訳を提供し、皆で質疑応答を行うこととします。 担当者が交代する区切りごとに、訓読を全員で音読し、意味を確認します。
--------	--

■授業の目的・ねらい	(1) 法然の選択本願念仏思想を、その心構えと行法とともに理解する。 (2) 法然の『選択集』の漢文を読み、読解力をつける。 (3) 『選択集』において一貫している聖典解釈法を理解する。 (4) 「授業の概要」に示した七つの項目の理解を深める。
------------	--

■到達目標	(1) 「授業の概要」で示した七項目を理解し、他者に説明できる (2) 『選択集』第八章に展開された三心論の概要がわかる。 (3) 『選択集』第九章に見られる四修論の概要がわかる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	20	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	80	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	法然教学演習2(秋期(大学院))Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	伊藤 真宏	シラバスグループ		BD2239	
開講年度	2026	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	法然『和語燈録』の研究
---------	-------------

■授業の概要	浄土宗を開いた法然(1133~1212)の残した言葉は様々な形で伝承された。それら法然文献の代表格ともいえる『黒谷上人語燈録』を素材に、文系の中でも特に歴史や思想の研究方法に言及しつつ法然の思想に迫ってみたい。鎌倉仏教祖師は、特に和語による布教を盛んに行なったが、法然はその嚆矢とも言え、歴史的に見ても意義がある。 (1)学問とは研究とは(2)法然の文献の概要(3)文献による実証と法然文献(4)法然思想の基本(5)「偏依善導一師」(6)還愚。これらを中心に法然尾和語文献を読んでいく。 授業では、受講生に原典を講読、現代語訳を行なってもらい、ディスカッションを交えながら進めていく予定をしている。
--------	---

■授業の目的・ねらい	(1)法然文献の原典に触れ、くずし字と古文の読解力をつけつつ、法然思想を理解することを目的とし、自身の研究に利用していくことができることをねらう。
------------	---

■到達目標	(1)「授業の概要」で示した6項目を説明できる。 (2)くずし字を読む。 (3)文献研究の重要性を説明できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	50	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	浄土教学演習1 (春期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	曾和 義宏		シラバスグループ	BD2319	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	浄影寺慧遠『観経義疏』の講読。
---------	-----------------

■授業の概要	浄影寺慧遠(523-592)は、地論宗南道派の僧とされるが、浄土教に対する学識ならびに影響力も非常に大きく、中国仏教の歴史に於いて初めて『無量寿経』と『観無量寿経』の注釈を施した。その注釈内容は、後に善導による批判の対象となったが、中国浄土教の教理形成に与えた影響も非常に大きい。 本講義では、浄影寺慧遠『観経義疏』を講読しながら、『観経』本文と対照させた会本を作成することで、浄影寺慧遠の『観経』解釈を理解する。あわせて善導『観経疏』との比較も行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	1. 漢文文献の読解。 2. 被注釈文献と注釈文献を対照させながら読解する方法を学ぶこと。 3. 善導浄土教との相違点を把握すること。
------------	---

■到達目標	1. 『観経』と浄影寺慧遠『観経義疏』とを対照させた会本を作成できる。 2. 浄影寺慧遠の『観経』解釈の特徴について説明できる。 3. 浄影寺慧遠の解釈について、善導が批判した点と受容した点について指摘できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	100%	レポート試験にて実施する。
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	浄土教学演習2（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	市川 定敬	シラバスグループ		BD2429	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『逆修説法』（一七日から三七日）を読む
---------	---------------------

■授業の概要	『逆修説法』は、安楽房遵西の父である中原師秀の請いにより行われた七七日の説法の記録である。法然浄土教の教義体系は『選択集』に結実するが、時期的にも内容的にもその前段階に位置づけられる。『選択集』ではあまり触れられない事柄についての説示が見られ、法然浄土教を理解する上で重要視される文献である。本講義では、この『逆修説法』（一七日から三七日）を講読し法然浄土教への理解を深める。
--------	--

■授業の目的・ねらい	①漢文の読み下しに、とにかく慣れる。②法然遺文に見られる用語に慣れる。③『選択集』のみでは触れることのできない議論に触れ、法然教学について幅広く理解する。
------------	---

■到達目標	①漢文および仏教文献（1次資料）を各々が読みこなせるようになる。②『選択集』では触れられない法然浄土教の教理について理解し、説明できる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	100%	レポート試験にて実施する
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学演習1（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	山極 伸之		シラバスグループ	BD2519	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	<パーリ律>「大?度」の読解と修士論文の作成
---------	------------------------

■授業の概要	<p>三蔵の一角を形成する律蔵は、内容的に役割の異なる「経分別」「?度」という組織によって構成される仏教文献である。このうち、「?度」は仏教教団の現実的な運営方法を提示するものであるが、取り扱うテーマによって細かく分類されている。現存する律蔵は多種あるが、インド語で残され、現在も南方上座部において活用されている<パーリ律>の場合、?度は全体で22のセクションで構成されている。その最初に置かれる「大?度」は、比丘になるための方法（出家と受具足）をテーマとするセクションであるが、その冒頭部分にブツダの成道直後から始まる「仏伝」を含むことで重要視される文献である。この講義では、<パーリ律>「大?度」の内容を、律蔵と仏伝という二つの観点から読解を行っていく。あわせて、本講義の内容をモデルケースの一つとして、修士論文を作成するために研究をどのように進めていく必要があるのか、そのプロセスについて実習を行う。特に、①研究目的の設定、②先行研究の把握、③原典（および翻訳）の読解、④論文の構成と作成、といった観点について理解を深め、修士論文作成に向けて受講者それぞれの研究に応用できるように、知識とスキルの修得を目指して演習を行う。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>①律蔵と仏伝の研究状況や問題点について理解する。 ②<パーリ律>?度「小品」の内容、仏伝としての意味や問題点について理解する。 ③修士論文作成に向けて個別の研究を進めるための知識とスキルを理解する。 </p>
------------	---

■到達目標	<p>①律蔵と仏伝の研究状況や問題点について説明できる。 ②<パーリ律>?度「小品」の内容、仏伝としての意味や問題点について説明できる。 ③修士論文作成に向けて必要な知識とスキルを身につけ、個別の研究を進めることができる。 </p>
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	80%	レポート試験にて実施する
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	20%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学演習2（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	細田 典明	シラバスグループ		BD2629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『ダンマパダ』講読と修士論文の作成方法
---------	---------------------

■授業の概要	<p>パーリ語『ダンマパダ』は仏教の代表的な経典であり、漢訳『法句経』、サンスクリット『ウダーナ・ヴァルガ』やプラークリット『ダルマパダ』等の他の部派による伝承がある。 また、ウパニシャッドや叙事詩、ジャイナ教聖典に並行句が知られる。 これらの伝承や並行句を参照して、その内容を中村元訳『真理のことば・感興のことば』（岩波文庫）で講読する。 また、論文作成のための必要な3点： ①研究史のまとめ②原典資料の扱い方③論文の構成 について理解し、自ら修士論文を作成することができるようにする。 仏教のどの分野にも適応できるように演習を進める。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>『ダンマパダ』は、出家・在家を問わず、最も広く読まれている初期仏典であり、更に、中国・西洋の古典に類似した内容が見られる。その内容を正確に理解し、仏教の普遍的意義に気付く。 また、具体的な課題を講読しながら、修士論文を作成するために必要な点は何であるのか、どのような過程を経るのか、どのように論文を構成するのかなど修士論文作成に資することを理解してもらうことが目的である。 </p>
------------	---

■到達目標	<p>講読した『ダンマパダ』の内容について正しく説明できる。 修士論文の作成方法を理解し、各自が自ら作成できる能力を身につける。 </p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	60%	レポート試験にて実施する
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	20%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	20%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学演習3（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	山極 伸之	シラバスグループ		BD2729	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	サンスクリット語初級文法とインド仏教文献の読解
---------	-------------------------

■授業の概要	<p>仏教は2500年に亘る長い歴史の中でアジアの諸地域へと伝播し、各地で膨大な仏教文献を産み出した。それらの諸資料は、サンスクリット語、パーリ語、プラークリット語、チベット語、中国語（漢文）等の諸言語によって記され、今日でもその多くが現存している。従って、仏教を専門的に研究しようとする場合、これらの言語や諸文献に関する知識が不可欠の要素となる。本講義では、これら様々な言語で伝承された仏教文献の全体像を、成立史も含めて概観し、研究の対象となる文献が仏教史の中でどのように位置付けられるのかを把握出来るようにする。その上で、諸言語の中でも、インド仏教研究のために必要不可欠の言語であるサンスクリット語を取り上げ、この言語の初歩的な文法内容について講義を行っていく。具体的には、基礎的な文法事項について全体的に解説し、初級文法の修得を目指す。あわせてサンスクリット文の読解練習等も行ないながら、最終的には独力で仏教のサンスクリット原典に直接触れることができるように講義を進めていく。</p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>①仏教文献の現存状況について理解する。 ②サンスクリット語の初級文法の全体像を理解する。 ③個別の研究を進めるために必要なサンスクリット文献を読解する力を身につける。 </p>
------------	---

■到達目標	<p>①仏教文献の現存状況について説明することができる。 ②サンスクリット語の初級文法の全体像を説明することができる。 ③個別の研究を進めるために必要なサンスクリット文献を読解することができる。 </p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	60	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	40	
・その他	0	

授業科目	仏教学演習4（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	田中 裕成		シラバスグループ	BD2829	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	インドの仏教哲学文献読解（俱舎、唯識）				
■授業の概要	インド仏教を解明するための文献は専らサンスクリット語で記されている。この演習では、インドにおける仏教の論典（哲学文献）について講義した上で、アビダルマ、中観、唯識それぞれのサンスクリット語原典を読み、論文作成のための文献読解力を養う。 本講義は演習であり、受講の際には梵文資料、あるいは漢文資料の予習を求める。				
■授業の目的・ねらい	インド仏教研究に必要不可欠なサンスクリット語原典を読む能力を身につけ、受講生が独自にインド仏教文献の中から大乘論典を読むための基礎的知識を養う。				
■到達目標	インド仏教研究に必要不可欠なサンスクリット語原典を読む能力を身につけ、受講生が独自にインド仏教文献の中から小乗大乘の論典を読むための基礎的知識を養う。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	100				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	仏教文化演習1 (春期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	坪井 剛	シラバスグループ		BD2919	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「寺社縁起絵巻」を読む
---------	-------------

■授業の概要	<p>古代から中世の日本において「縁起」はその本来の意味から転じ、「寺社の由来やその功德・伝承、及びそれらを記した書物のこと」も指すようになる。特に中世になると、寺院数の増加にともない、多くの「縁起」が編纂され、また絵巻物形式で作られるものも登場するようになる。 こういった「寺社縁起」は、当該寺院の体系的な歴史記録として重要であるが、その一方でその記述には、潤色と見做さざるを得ない記事が入ることにも注意しなければならない。それ故、「寺社縁起」の史料としての取り扱いには慎重に行わなければならないが、そういった記事も含めてなぜ「寺社縁起」が編纂されたのかといった観点から読解していくことも、当該寺社の歴史を考える上で重要であろう。 また、絵巻物形式のものは、「寺社縁起」本文の絵画化という点でも重要だが、当時の寺院に係わる習俗・風習を分析することのできる絵画史料としての側面でも貴重である。絵画部分を読み込むことで、文献史料では伝わることのない、当時の生活様式を知ることにも可能であろう。 以上のような観点から、本授業では「石山寺縁起」を読解し、その作成背景や当時の仏教習俗・風習を考察していく。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>・中世の文献史料に用いられる用語・文法を正確に理解し、自身で史料読解できる力を養う。 ・絵巻を絵画史料として分析し、そこに見える習俗・風習を解釈する素養を養う。 ・史料から疑問点を見出すとともに、それを解決するための方策をどのように立てるのか、 その疑問点が何を意味するのか、といったことを考える習慣を身につける。</p>
------------	---

■到達目標	<p>・「寺社縁起絵巻」を正確に読解する力を身につける。 ・絵巻物の絵画部分を観察し、当時の仏教に係わる習俗・風俗を読み取る力を身につける。 ・史料から導き出された疑問点や論点を自身で考察・解消できるようになる。</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	50	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	50	
・その他	0	

授業科目	仏教文化演習2（秋期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	坪井 剛	シラバスグループ		BD3039	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「寺社縁起絵巻」を読む
---------	-------------

■授業の概要	<p>古代から中世の日本において「縁起」はその本来の意味から転じ、「寺社の由来やその功德・伝承、及びそれらを記した書物のこと」も指すようになる。特に中世になると、寺院数の増加にともない、多くの「縁起」が編纂され、また絵巻物形式で作られるものも登場するようになる。 こういった「寺社縁起」は、当該寺院の体系的な歴史記録として重要であるが、その一方でその記述には、潤色と見做さざるを得ない記事が入ることにも注意しなければならない。それ故、「寺社縁起」の史料としての取り扱いは慎重に行わなければならないが、そういった記事も含めてなぜ「寺社縁起」が編纂されたのかといった観点から読解していくことも、当該寺社の歴史を考える上で重要であろう。 また、絵巻物形式のものは、「寺社縁起」本文の絵画化という点でも重要だが、当時の寺院に係わる習俗・風習を分析することのできる絵画史料としての側面でも貴重である。絵画部分を読み込むことで、文献史料では伝わることのない、当時の生活様式を知ることにも可能であろう。 以上のような観点から、本授業では「春日権現験記絵」を読解し、その作成背景や当時の仏教習俗・風習を考察していく。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>・中世の文献史料に用いられる用語・文法を正確に理解し、自身で史料読解できる力を養う。 ・絵巻を絵画史料として分析し、そこに見える習俗・風習を解釈する素養を養う。 ・史料から疑問点を見出すとともに、それを解決するための方策をどのように立てるのか、その疑問点が何を意味するのか、といったことを考える習慣を身につける。</p>
------------	---

■到達目標	<p>・「寺社縁起絵巻」を正確に読解する力を身につける。 ・絵巻物の絵画部分を観察し、当時の仏教に係わる習俗・風俗を読み取る力を身につける。 ・史料から導き出された疑問点や論点を自身で考察・解消できるようになる。</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	50	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	50	
・その他	0	

授業科目	仏教文化演習3（秋期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	三好 俊徳		シラバスグループ	BD3139	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『沙石集』を読む
---------	----------

■授業の概要	<p>仏教文化に関わる文献資料として、日本の鎌倉時代に無住によって撰述された『沙石集』を取り上げる。新編日本古典文学全集本を基本テキストとして、先行研究を参照し、関連資料との比較検討などを行い、多面的に読み解く。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>本文を読み解く技能を身につけることを目的とする。また、中世仏教思想と文学との関係を理解することを目指す。</p>
------------	---

■到達目標	<p>辞書だけでなく先行研究を活用しながら、本文を文脈にそくして正確に読解する技能を身につける。</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	60	レポート試験にて実施する
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	40	授業内での発表や意見交換をもとに総合的に評価する。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	仏教文化演習4（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	大西 磨希子		シラバスグループ	BD3229	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『古清涼伝』講読
---------	----------

■授業の概要	<p>仏教文化に関わる文献として、唐・高宗期の『古清涼伝』を取り上げます。書名にある「清涼」とは、古来、文殊菩薩の住まれる霊山として尊崇された五台山を指し、中国に渡った日本の僧侶が目指す聖地の一つでした。本書には、そうした五台山の名称の由来や仏教の遺跡、感通の奇跡譚など、五台山にまつわる興味深い記事が収録されています。 授業では、『大正新脩大蔵経』（以下『大正蔵』）第51巻を基本テキストとして使用し、『国訳一切経史伝部18』を併用しつつ、訓読してゆきます。 本年度は、「時脱既聞此声」（『大正蔵』51、1096頁上段14行）から開始します。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	漢文資料に慣れることを第一の目的とします。具体的には辞書類を活用しながら、漢文資料を書き下し、読解する力を養うことを目指します。
------------	--

■到達目標	辞書類を活用しながら、漢文資料を訓読し、読解することができる。
-------	---------------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	50%	
・授業内試験	50%	レポート課題は、(1) 講読箇所の中からは、各自がテーマを設定し、それについて調べた内容をまとめるもの、(2) 指定する範囲の訓読、のどちらかを選択していただきます。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学特論1（秋期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	吹田 隆道		シラバスグループ	BD5139	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	仏伝文学に見るブツダ観の変遷				
■授業の概要	インドの仏教は経典とは別に、釈迦牟尼の生涯、あるいは前世を伝える「仏伝」というジャンルを作り上げた。この「仏伝」はなぜ編纂されたのか、そしてそれは何を伝えようとしたのか。この授業ではパーリ語やサンスクリット語の原典に基づきながら「仏伝」の成立と展開を解説し、そこに伝承されるブツダ観の変遷をとおして、教理・思想史からの側面だけでは理解できない仏教の歴史を見る。				
■授業の目的・ねらい	この授業を通して、仏教文献学の研究方法を学び、それぞれの研究の方法論を構築できるようになることを目的とする。				
■到達目標	1. 仏伝文学の成立となる文献が果たして歴史的人物を伝えるために編纂されたのかという問題意識をもち、既存の学説を再考できる知識を持てるようになる。 2. 仏伝が伝えようとしたものがどのように展開したのかを検証し、仏教教理史からの側面だけでは理解できない人の営みとして求められた仏教を理解し、インド仏教史をより総括的に見られるようになる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	80%	レポート試験にて実施する			
・レポート試験(SR履修)	0%				
・授業内発表	20%				
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				
・その他	0%				

授業科目	仏教学特論2（秋期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	安達 俊英		シラバスグループ	BD5239	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	浄土宗における追善回向				
■授業の概要	現在の日本仏教は宗祖の教えに関わりなく、実質的に追善回向がその中心となっているといえる。また近年はペットの追善回向が世間の関心を集めている。 そのような中、本授業では浄土宗における追善回向観の歴史的展開を見てゆく。具体的には法然・聖光・良忠といった諸師の著作の中から、追善回向に言及する箇所を抜き出し、当該部分を講読する。また、江戸期になると、檀家制度との関係などから、追善回向はより具体的で切実な問題となってゆく。その江戸期の追善回向観の一端を、関通『一向専修行者朝暮回向之事』、貞極『回向弁』、法洲『蓮門回向十条弁』などから垣間見ることとする。 なお本授業ではペット往生の可否についても言及したいと考えている。				
■授業の目的・ねらい	授業テーマにあるとおり、浄土宗における追善回向の歴史を確認するのが第一義的なねらいといえる。ただ、その際、講義形式ではなく、原文を講読する形の演習形式の授業としたのは、漢文・古文の原文読解力を高めて頂くことも、本講義の重要な目的とするからである。また、それと並んで、大学院で研究を進めるためのスキル（ネット情報の利用、辞書・辞典の使い方など）も身につけて頂きたいものとする。				
■到達目標	浄土宗における追善回向の歴史の理解と、漢文・古文の原文読解力向上、ならびに大学院での研究のスキル獲得。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	0%				
・授業内発表	20%	質問や講義内でのディスカッションなど、授業に対する積極性に関する評価点			
・授業内試験	0%				
・授業内課題	10%	授業内でごく簡単なレポートを提出いただく可能性があるが、レポートを課した場合のそのレポートに対する評価点			
・その他	70%	予習ノートの提出を課し、その予習ノートの内容によって評価する			

授業科目	教育人間学演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	杉本 均	シラバスグループ		HC2139	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	国際的教育人間学（国際教育学 多文化教育論）について考える
---------	-------------------------------

■授業の概要	<p>国境を越えて展開する近年のダイナミックな教育現象を、その連続性・断続性という観点から比較教育的に分析する。生まれてから死ぬまですべての教育・学習活動をすべて1つの国で済ますことがむしろ例外的となってきた近年の国際化、グローバル化の状況に対して、わが国を含めた各国の教育やそのシステムにおいて、その互換性、連続性、寛容性を向上させようという対応は、依然として閉鎖的な教育概念が主流であった時代の制度や規則によって大きな障壁に直面している。本特論は、教育や学習者が国境を越えたときに起こる様々な問題について具体的に検討するとともに、それを解決するために各国が取り組んでいる教育的アプローチについて比較考察し、わが国への知見と示唆を導きだす。 前半のトピックとしては留学の世界的状況、留学生政策、日本人留学生の特徴、トランスナショナル高等教育、の問題を扱い、ケーススタディとしては日本、アメリカ、英国、マレーシア、EU諸国などを取り上げて解説する。 後半のトピックとしては、マイノリティと教育の問題を取り上げ、多文化教育論、多文化主義教育、宗教と教育、カーストと教育などのテーマについて、日本、アメリカ、カナダ、フランス、イギリス、マレーシア、シンガポール、インドなどを扱う。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>教育にとって国境とは何か、国を越えて変わらぬ教育の側面はあるのか、また国家によってどれほど教育が規定されるのかについて理解する。また、マイノリティの子どもの教育は多民族社会においてどのような問題に直面しているのか理解する。</p>
------------	--

■到達目標	<p>世界と日本の国際教育流動について理解する 世界と日本の民族教育問題について理解する</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	70	全体を通してレポートを求めます。
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	30	授業内のレジュメによる報告を求めます。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	比較教育学演習（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	原 清治	シラバスグループ		HC2319	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	修士論文の作成方法について理解するー国際比較データ分析からー
---------	--------------------------------

■授業の概要	修士論文でどのようにデータ分析を行うのか、若年未就労者の国際比較データ分析から考える
--------	--

■授業の目的・ねらい	本授業では、大学院修士課程レベルの論文作成の手法についての理解を深めることを目的とする。また、調査分析の方法としての質的・量的データの取り扱いについて理解し、もって現代社会の問題を仮説・演繹的に導くことができる力を涵養する。 本講では、若年未就労者の実態をとらえるために現状認識に基づいた質的・量的データ分析を参考に、修士論文を作成するうえで、どのような研究枠組みを立てる必要があるのか、比較の視点から考えてみたい。
------------	--

■到達目標	修士論文を作成するために必要な先行研究を探ることができる 修士論文を作成するために必要なデータを取り出すことができる
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	50%	レポート試験にて実施する
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	50%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	教育制度学演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	山内 乾史	シラバスグループ		HC2429	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	現代日本における教育制度について
---------	------------------

■授業の概要	学校をめぐる諸問題の実態とその背景にあるメカニズムを理解する 高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。 本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年未就労者と教育」などである。
--------	---

■授業の目的・ねらい	諸外国の教育と比較しながら、近未来の日本の社会と教育のあり方を検討することを通じて、教育社会学的なものの捉え方を把握する能力を身につけること。
------------	---

■到達目標	教育制度論の領域において現在問題になっている、多様な問題について社会学的な視角から基礎的な理解を深めることが目的である。具体的には毎回授業プリントに参考文献と課題を掲げる。それらをこなすことによって到達目標に到達できるように計画している。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	50	レポート試験にて実施する。
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	授業参加度、授業に取り組む姿勢

授業科目	教育方法学演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	大下 卓司		シラバスグループ	HC2529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	教育方法学と教育実践研究の方法
---------	-----------------

■授業の概要	1 日目は学校教育における学力問題、学習方略と授業づくり、学習意欲、評価方法、知的好奇心を引き出す授業、教えて考えさせる授業や学習者主体の授業方法に関して学ぶ。 2 日目はeラーニングを含むオンライン学習の現状と国内におけるICTの教育への効果的な活用法（初等～高等、生涯教育）の現状や具体的な利用法を学ぶ。また、学校教育の情報化により重要となってきた著作権に関して具体的な場面を取り上げて学ぶ。 3 日目はコンピテンシーベースのカリキュラムが求められる昨今、学習者の能力を可視化する評価課題の作成について学ぶ。
--------	--

■授業の目的・ねらい	現在の学校教育における課題や、効果的な教育方法、技術を知識として学ぶ。また、ICT活用で重要視されてきた情報モラルの一つである学校教育における著作権を学び、学校現場で適切な著作物の利用に応用する。さらに、学習者の能力を評価する考え方と方法について学ぶ。
------------	--

■到達目標	新学習指導要領で求められている子どもの資質・能力を育成する教育方法、技術を学校現場で応用できるようになる。また、そうした学力を妥当な方法によって評価できるようになる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	100	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	臨床心理学特論1 (春期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	松瀬 喜治		シラバスグループ	HE0119	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)
■授業のテーマ	「臨床心理学」に関する基本的なパラダイムを理解して如何に自分のものとして身につけるかという心理臨床に必要な基本的な課題について学ぶ				
■授業の概要	(1) 臨床心理学的視点とはどのようなものか (2) 臨床心理学の歴史的展望 (3) 臨床心理士の専門性・独自性				
■授業の目的・ねらい	臨床心理士としてのアイデンティティーの形成に関わる内容のひとつとして「臨床心理学的視点」を明確にすることと、心理臨床の実践・研究活動に求められる「倫理的・道義的責任と秘密保持」の重要性を自覚することをねらいとする。				
■到達目標	臨床心理士に課せられた倫理的・道義的責任についての自覚を持ち、臨床心理士・心理臨床家のアイデンティティーを身につけることが目標となる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	50	スクーリングの講義演習を通じて、心理臨床家としての基本的な姿勢について得られたものを論述させて評価を行う。 身につけていると査定された度合いによって80点 70点、60点と評価を行う。			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	20	発言ならびにコメントの論理性・独自性・創造性を所持しているかによって加点をして行く。			
・その他	30	他の発言者のテーマや関連する自身の疑問やコメントを提示して 討論にコミットする能力を判定する。			

授業科目	臨床心理学特論2（秋期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	藤岡 勲		シラバスグループ	HE0239	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)
■授業のテーマ	援助過程に関する諸課題を通して、臨床心理に関する援助専門職としての在り方を考える。				
■授業の概要	臨床心理学的援助活動を行うためには、援助活動と社会・文化的要因との関係性を理解することが重要となる。援助活動と社会・文化的要因との関係性の中でも基本となるものについて学ぶ。				
■授業の目的・ねらい	下記を通して、臨床心理学的援助活動と社会・文化的要因との関係性をとらえる基礎的能力を養うことを目的とする： ・臨床心理学的援助活動と社会・文化的要因との関係性の基本を説明できるようになる。 ・臨床心理学的援助活動と社会・文化的要因との関係性に関する主要な枠組みを援用しながら、援助活動の実際について説明できる能力の基礎を養う。				
■到達目標	・臨床心理学的援助活動と社会・文化的要因との関係性の基本を説明できる。 ・臨床心理学的援助活動と社会・文化的要因との関係性に関する主要な枠組みを援用しながら、援助活動の実際について、一定水準以上の説明ができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	50%	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	50%	講義内での積極的な質疑応答を期待する。その受講態度やフィードバックの内容などが、成績評価に反映される。			
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	臨床心理面接特論1（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	牧 剛史		シラバスグループ	HE0319	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)
■授業のテーマ	臨床心理面接の専門性とその実際				
■授業の概要	<p>カウンセリングや心理療法など、心理臨床実践の方法論としての「臨床心理面接」とはなにかについて理解を深め、臨床心理面接の固有性について学び、臨床心理学の視座から対人援助が行える資質を高めることを目的とする。臨床心理面接によって、臨床心理士は一体どのような援助を行おうとするのか、また臨床心理士はどのような態度で人間に出会い向き合おうとするのか、事例を取り上げながら専門性と実際について学ぶ。</p>				
■授業の目的・ねらい	<p>テキストを精読することで得た知識について、臨床心理面接の実際に即して体験的に理解することを目標とする。特に、臨床心理面接による対人援助のねらい、臨床心理面接を行う者の態度、人間の心へのまなざしなどについて討議を行い、学修することが目的となる。最終時間に、講義の理解度をはかる論述形式の試験を行う。</p>				
■到達目標	<p>①臨床心理面接で大切なことはなにか、説明することができる。 ②面接者として必要な姿勢について説明することができる。</p>				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	80				
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	20				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	臨床心理面接特論2（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	藤岡 勲	シラバスグループ		HE0439	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)
■授業のテーマ	面接（カウンセリング）とは何か・カウンセリングの実際				
■授業の概要	臨床心理面接を行うためには、心理援助のプロセスを把握することが重要となる。そこで、心理援助におけるセラピストとクライアントのやりとりを実証的に検討するプロセス研究の基本について学ぶ。その学びを通し、面接で何が起きているのかを説明できる力の土台も養う。				
■授業の目的・ねらい	下記を通して、心理援助のプロセスをとらえる基礎的能力を養うことを目的とする： ・プロセス研究の基本を説明できるようになる。 ・プロセス研究の知見を活用しながら、面接で何が起きているのかを説明できる能力の基礎を養う。				
■到達目標	・プロセス研究の基本を説明できる。 ・プロセス研究の知見を活用しながら、面接で何が起きているのかについて一定水準以上の説明ができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	50%	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。			
・レポート試験(SR履修)	0%				
・授業内発表	50%	講義内での積極的な質疑応答を期待する。その受講態度やフィードバックの内容などが、成績評価に反映される。			
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				
・その他	0%				

授業科目	臨床心理査定演習1（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	中道 泰子	シラバスグループ		HE0529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	臨床心理アセスメントの理論と実践を学ぶ。
---------	----------------------

■授業の概要	臨床心理アセスメントは、人間理解の一つの方法として非常に重要である。本授業では、臨床心理アセスメントを行う際の基本的な考え方と留意点について学んでいく。中でも、発達検査（新版 K 式発達検査2020）を中心に取り上げ、理論的背景及び施行法、所見の作成から結果のフィードバックについて演習を交えて学び、臨床心理的援助にどのように生かしていくのかを検討する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	発達に関する臨床心理査定法の基礎を学び、それらを臨床心理的援助にどう生かすかについて体験的に学ぶ。
------------	---

■到達目標	臨床心理実践の中で、心理アセスメントを生かすことができるようになることを目標とする。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	30	
・授業内試験	50	
・授業内課題	20	
・その他	0	

授業科目	臨床心理査定演習2（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	松瀬 喜治		シラバスグループ	HE0629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	臨床心理学的アセスメントの基礎と投映法の修得				
■授業の概要	臨床心理査定能力の醸成 ロールシャツハ法を臨床に活かす				
■授業の目的・ねらい	臨床心理場面におけるクライアントの心理的理解に供する各種心理検査の施行法・解釈法を修得させ、可能な限り、実践で活用できる水準まで技を高めることを目的とする。一心理臨床家の専門家としての「見立てる能力」の向上				
■到達目標	各種心理検査の施行法・解釈法を修得させ、可能な限り、実践で活用できる水準まで技を高めることを目的とする。心理臨床家としての「見立てる能力」の視点を学ぶ				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	50	ロールシャツハ法を通じて自己分析を考察する			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	50	自身が受けた自分のロールシャツハ・テストの結果を、授業の決められて時間内でスムーズに整理をして、解釈までに至るかについて総合評価を行う。			
・その他	0				

授業科目	臨床心理査定演習3（春期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	谷本 拓郎		シラバスグループ	HE0719	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	ウェクスラー式知能検査（WAIS-IV・WISC-V）の習得				
■授業の概要	多くの心理臨床の現場で用いられているウェクスラー式知能検査の基本的な考え方と留意点を学ぶとともに、検査実施要領、結果の処理法、解釈法、報告書の書き方を学び、実際の臨床場面での活用をめざす。個々の検査項目ごとに検査方法を実習方式で学んだ上で、通しでのウェクスラー式知能検査実施実習を行い、その解釈結果をまとめる。				
■授業の目的・ねらい	①ウェクスラー式知能検査の歴史的展開、適用対象、測定内容を的確に説明できるようになる。②ウェクスラー式知能検査を用いて検査を実施し、検査結果を正確に算出することができるようになる。③検査結果の解釈を的確に行い、報告書にまとめることができるようになる。				
■到達目標	①ウェクスラー式知能検査の歴史的展開、適用対象、測定内容を的確に説明することができる。②ウェクスラー式知能検査を用いて検査を実施し、検査結果を正確に算出することができる。③検査結果の解釈を的確に行い、報告書にまとめることができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	80	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	20	授業内における課題発表・ディスカッション内容によって評価する。			
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	臨床心理査定演習4（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	寺口 大	シラバスグループ		HE0829	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	P-F スタディおよび MMPI の習得
---------	----------------------

■授業の概要	心理査定の基本的な考え方と留意点を学ぶとともに、P-F スタディおよび MMPI の施行法・解釈法を学び、実際の臨床場面での活用をめざす。実際に心理検査を実施し、解釈のポイントを学んだ上で、その検査結果の報告書作成までを行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①各心理検査の発展、心理検査法としての位置付け、検査内容を的確に説明できるようになる。 ②心理検査を適正に実施し、検査結果の整理が適確にできるようになる。 ③結果の解釈を行い、報告書にまとめることができるようになる。
------------	--

■到達目標	①各心理検査の発展、心理検査法としての位置付け、検査内容を的確に説明できる。 ②心理検査を適正に実施し、検査結果の整理が適確にできる。 ③結果の解釈を行い、報告書にまとめることができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S 履修)	80	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	20	授業内における課題発表・ディスカッション内容によって評価する。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	臨床心理基礎実習1（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	1.0
担当者	牧 剛史・中道 泰子		シラバスグループ	HE0929	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	(前半)セラピストとしての基本姿勢を学ぶ (後半)臨床心理実践のための基礎的能力を習得する。
---------	--

■授業の概要	「臨床心理基礎実習1,2」は臨床心理実習の基礎に位置づけられ、講義科目と有機的に関連した構成がされている。1から2までを通して履修することによってカウンセリング、プレイセラピーの基礎を学び、次年度の学内実習、学外実習において事例を担当するだけの実践力を養うことを目的とする。本実習では、感受性訓練や心理臨床実践の基礎訓練を中心に行う。また、インターク面接、および臨床心理面接の理論と実際を学ぶ。
--------	---

■授業の目的・ねらい	(前半) 本実習の目的はセラピストとしての基礎トレーニングである。様々な実習を通して、セラピスト（心理臨床家）としての基本姿勢を体験的に学ぶことを主眼とする。 (後半) 本実習は、臨床心理実習の基礎に位置づけられ、講義科目と有機的に関連した構成になっている。①ラポールの形成、②アセスメント、③治療仮説と治療目標、④インフォームド・コンセント、⑤治療契約の締結・治療同盟の構築などについて、ロールプレイを通して体験的に学ぶ。
------------	--

■到達目標	(前半)セラピストとしての基本姿勢とはなにか、自分の体験を元に説明することができる。 (後半)臨床心理実践に必要な基礎的能力の習得を目指す。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	70%	
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	30%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	臨床心理基礎実習2（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	1.0
担当者	荒井 真太郎・藤岡 勲		シラバスグループ	HE1129	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	（前半） 児童期から思春期にかけての心理療法 （後半） 傾聴技法（マイクロカウンセリング技法）の基礎
---------	---

■授業の概要	（前半） 児童期や思春期のクライアントを対象として心理療法を行なう時、成人とは異なるアプローチが必要になる。具体的には遊戯療法や非言語的媒体を通してのアプローチであり、その背景となる理論とともに、臨床事例について取り上げる。また、1日目にはプレイルームにてロールプレイを実施し、体験的理解を目指す。（ロールプレイでは、動きやすい服装を着用すること。） （後半） 実践活動を行うためには、傾聴技法を実践できることが重要となる。傾聴技法を身につける上では、各技法の関係性を体系的に理解することも求められることから、マイクロカウンセリング技法を扱う。具体的には、各技法についての解説を行う。そして、主要な技法のワークを行う。それらを通して、傾聴技法を実践できる力の土台も養う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	（前半） 児童期・思春期の心理療法に関する理論的理解と体験的理解を目的とする。児童期におけるプレイセラピーのロールプレイ、または非言語的なコミュニケーションによるグループワークにより、体験的理解を目指す。また、思春期・青年期の心理療法に関する理論、技法に触れるとともに、カウンセリングの事例を通して理解を深める。 （後半） 下記を通して、傾聴技法を実践できる基礎的能力を養うことを目的とする ・マイクロカウンセリング技法について説明できるようになる。 ・マイクロカウンセリング技法を展開する能力の基礎を養う。
------------	--

■到達目標	（前半） ①非言語的治療（遊戯療法・象徴的理解）のアプローチを理解する。 ②大人と子どもの心をつなぐチャンネルを把握する。 ③児童・思春期の発達理論について理解する。 （後半） 下記の基礎的能力が養われている ・マイクロカウンセリング技法について説明できる。 ・マイクロカウンセリング技法を展開する能力の基礎が養われている。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	70%	（前半・後半） 授業内試験とする。
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	30%	（前半） ロールプレイまたはグループワークへの取り組み、授業内発表など （後半） 授業に対する参加姿勢等から総合的に判断する
・その他	0%	

授業科目	臨床心理実習5（通年（大学院））Aクラス_オンライン			単位	1.0
担当者	石岡 千寛・免田 賢・藤岡 勲・寺口 大	シラバスグループ	HE1509		
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	医療機関、教育機関における心理臨床実習
---------	---------------------

■授業の概要	医療機関、教育機関における心理臨床実習のグループスーパーヴィジョン
--------	-----------------------------------

■授業の目的・ねらい	臨床心理士・公認心理師の必要とされる職域、業務は多岐にわたっている。講義や演習で学んだ知識や技術とならんで、学外の臨床現場における実践的体験は欠かせない。その体験を通して、臨床心理士・公認心理師としてのアイデンティティとその専門性を各自が構築していかなばならない。この授業では、医療機関と教育機関で実際に臨床活動に携わり、現場の担当スタッフ、指導者の指導のもと、医療機関では患者や医療スタッフとのかかわり、教育機関では児童・生徒、保護者や教師とのかかわりを通して、臨床実践の力を付けていくことを目的とする。またスタッフとの連携についても実践的に学ぶことを目的とする。
------------	---

■到達目標	医療機関・教育機関における臨床心理活動を身をもって体験すること。 グループスーパーヴィジョンを通して自分の心理実習の意味を考えること。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	60	自分自身の心理実習を振り返り、レポートを作成し、授業で発表する。 また自分の実習に関して話し合いたいことを見つけ、授業内で他の大学院生と分かち合う。
・授業内試験	0	
・授業内課題	40	他の大学院生が発表した内容について、積極的に自分の意見を述べる。
・その他	0	

授業科目	臨床心理実習3(通年(大学院))Aクラス_オンライン			単位	1.0
担当者	石岡 千寛・免田 賢・藤岡 勲・寺口 大	シラバスグループ	HE1509		
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	医療機関、教育機関における心理臨床実習
---------	---------------------

■授業の概要	医療機関、教育機関における心理臨床実習のグループスーパーヴィジョン
--------	-----------------------------------

■授業の目的・ねらい	臨床心理士・公認心理師の必要とされる職域、業務は多岐にわたっている。講義や演習で学んだ知識や技術とならんで、学外の臨床現場における実践的体験は欠かせない。その体験を通して、臨床心理士・公認心理師としてのアイデンティティとその専門性を各自が構築していかなばならない。この授業では、医療機関と教育機関で実際に臨床活動に携わり、現場の担当スタッフ、指導者の指導のもと、医療機関では患者や医療スタッフとのかかわり、教育機関では児童・生徒、保護者や教師とのかかわりを通して、臨床実践の力を付けていくことを目的とする。またスタッフとの連携についても実践的に学ぶことを目的とする。
------------	---

■到達目標	医療機関・教育機関における臨床心理活動を身をもって体験すること。 グループスーパーヴィジョンを通して自分の心理実習の意味を考えること。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	60	自分自身の心理実習を振り返り、レポートを作成し、授業で発表する。 また自分の実習に関して話し合いたいことを見つけ、授業内で他の大学院生と分かち合う。
・授業内試験	0	
・授業内課題	40	他の大学院生が発表した内容について、積極的に自分の意見を述べる。
・その他	0	

授業科目	心理実践実習（GSV）（通年（大学院））A クラス_対面			単位	1.0
担当者	藤岡 勲・谷本拓郎・松瀬 喜治・免田 賢・中道 泰子・箕浦 有希久		シラバスグループ	HE1609	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	司法・犯罪分野、産業・労働分野、福祉分野等の施設での実習				
■授業の概要	援助技術、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理・法的義務の理解等について、実習体験のスーパーヴィジョンを行なう。				
■授業の目的・ねらい	心理職としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、学外実習の体験を振り返る。そのような学びを通して、より具体的には、(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理職としての職業倫理及び法的義務への理解という、(1)～(5)についての基本的な水準の修得を目指す。				
■到達目標	(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理職としての職業倫理及び法的義務への理解という、(1)～(5)についての基本的な水準を修得している				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	70	発表内容並びに授業外学習の成果について、到達度に基づき評価する。			
・授業内試験	0				
・授業内課題	30	授業内の学習成果、報告内容によって評価する。			
・その他	0				

授業科目	心理実践実習5(通年(大学院))Aクラス_対面			単位	1.0
担当者	藤岡 勲・谷本拓郎・松瀬 喜治・免田 賢・中道 泰子・箕浦 有希久		シラバスグループ	HE1609	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	司法・犯罪分野、産業・労働分野、福祉分野等の施設での実習				
■授業の概要	援助技術、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理・法的義務の理解等について、実習体験のスーパーヴィジョンを行なう。				
■授業の目的・ねらい	心理職としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、学外実習の体験を振り返る。そのような学びを通して、より具体的には、(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理職としての職業倫理及び法的義務への理解という、(1)～(5)についての基本的な水準の修得を目指す。				
■到達目標	(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理職としての職業倫理及び法的義務への理解という、(1)～(5)についての基本的な水準を修得している				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	70	発表内容並びに授業外学習の成果について、到達度に基づき評価する。			
・授業内試験	0				
・授業内課題	30	授業内の学習成果、報告内容によって評価する。			
・その他	0				

授業科目	心理統計法特論（春期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	箕浦 有希久		シラバスグループ	HE2019	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	心理統計法（推測統計を中心に）				
■授業の概要	心理学研究におけるデータの数量化とその処理法について講義を行う。それを踏まえて、PCを利用しての実際の統計処理演習も行う。				
■授業の目的・ねらい	記述統計と推測統計について、心理学における研究例を用いながら学ぶ。多変量解析を除いた推測統計法について、その原理と手法を習得することを目的とする。				
■到達目標	統計的仮説検定の手順を理解し、データの内容から検定方法を選択・実施し、自分自身で算出した検定結果から結論を述べられるようになる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	70				
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	30				
・その他	0				

授業科目	家族臨床心理学特論（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	荒井 真太郎		シラバスグループ	HE4339	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)
■授業のテーマ	個人面接と集団・家族・地域支援の実践				
■授業の概要	親子の問題、家族を心理的にサポートするとはいかなる営みであるのかということを考える。また、個人を対象とする心理療法と、家族などの集団を対象とする援助的関わりを比較して、双方のアプローチの意義や実践上の問題について、事例を通して検討する。				
■授業の目的・ねらい	親や家族を対象とした心理療法・カウンセリングの重要性、実践上の問題について、事例を通して考察することを目的とする。個人療法における援助的スタンスと、集団や家族療法的なスタンスについて学び、複雑な人間関係が展開する中での援助的関わりについて検討する。				
■到達目標	親や家族を対象とした心理的援助に関する、特定のアプローチについて理解している。家族や集団に対する支援者の役割についてイメージできる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	0%				
・授業内発表	20%	1日目の最初の授業における関連書籍の概要の紹介を発表とする。			
・授業内試験	0%				
・授業内課題	70%	授業内でテーマを提示する。			
・その他	10%	ディスカッションやミニレポートの内容			

授業科目	心理療法特論1 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	免田 賢	シラバスグループ		HE6429	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	行動論的治療ーペアレントトレーニングの臨床を通してー
---------	----------------------------

■授業の概要	<p>現在、認知・行動系の心理療法がその効果エビデンスとアカウンタビリティという点で、国際標準となっている。本講義では、応用行動分析から行動療法、そして認知行動療法の基礎概念について、理解することを目的とする。その上で、発達障害児のアプローチとして最もエビデンスが高いものとして知られるペアレントトレーニングのアプローチへと実践理解を深める。 特に行動を軸に様々な人間行動とその臨床的応用について、資料を用いて学ぶ。一方的に講義をするのではなく、受講生とともに演習や資料を通して、様々な考えを深めることを目的としている。 現在、受講生が関わっているケースについて、1例報告できるようにしておいて欲しい。アプローチの方法や介入については、行動的なアプローチ以外でももちろん可。</p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>応用行動分析・行動療法の基礎概念を理解できること。 そして、実際の臨床ケースに対して、具体的な治療アプローチができることをねらいとする。 本授業においては、行動理論を通して、日常生活にみる私たちの行動理解が可能となることが第一の目的である。さらに発達に配慮が必要な子どもへの支援へといかすこと、様々な対象者に臨床的応用が可能になることが第二の目的である。特に、行動理論の持つアセスメントの重要性が理解でき、行動理論は他の心理療法とは異なり、信念や思想ではなくクライアントを共同治療者とする方法の体系であることが理解できることが目標である。</p>
------------	---

■到達目標	<p>行動理論の特徴とその基礎について理解ができる。 他の心理療法とのちがいについて、指摘ができる。 行動理論の対象認識技術について説明ができる。 また、対象変容技術について、説明することができる。 応用として、ペアレントトレーニングを実施する際の面接技術と、面接の進め方について理解ができる。</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	70	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	10	
・授業内試験	10	
・授業内課題	10	
・その他	0	

授業科目	心の健康教育に関する理論と実践（春期（大学院））Aクラス_対面	単位	2.0
担当者	石岡 千寛、寺口 大	シラバスグループ	HE7119
開講年度	2026	開講学期	前期
		履修方法	S

■授業のテーマ	心の健康教育に関する理論を学んだ上で、心の健康教育が実践できるようになる。
---------	---------------------------------------

■授業の概要	①心の健康教育に関する理論 医療、教育、福祉、産業、司法領域それぞれにおいての心に健康教育のための知識を学ぶ。 心理に影響する、身体的・社会的・霊的状况に関する知識を整理する。 ②心の健康教育に関連したサポートや介入法 身体ワーク（リラクゼーション法）、マインドフルネス、自助グループなどを学ぶ。 ③心の健康教育に関する実践 心理的な困難さを抱える人たちを想定して、その人たちにどのような心理教育ができるかを考えてもらい、模擬的に発表してもらう。
--------	---

■授業の目的・ねらい	心の健康教育に関する理論を学ぶ。 心理的な支援として、個人的または集団的に、心理健康教育をすることができるようになる。 心理的な支援を、心理的視点だけではなく、身体的視点、社会的視点、霊的な視点からも考えて行うことをめざす。
------------	--

■到達目標	心理的な支援として、個人的・集団的に、自分の関心のあるテーマに関して心理健康教育をすることができるようになる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	60	各自で、テーマを決めて、心理教育のプログラムないしグループ教育を作成し、発表してもらう。
・授業内試験	0	
・授業内課題	40	講義内でのワークに積極的に取り組む。
・その他	0	

授業科目	日本文学研究基礎（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	有田 和臣		シラバスグループ	MA0219	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	日本文学研究の基礎
---------	-----------

■授業の概要	日本語および日本語によって表現された文芸作品や思想文献、あるいは文化事象などを主たる研究対象とし、さらにはその背後にある歴史や社会状況をも考察の対象とします。具体的な授業進行手順としては、先行研究論文を教材とし、その論文の研究の道筋と論理展開を学修することによって、資料・文献の収集方法と扱い方の技能を獲得します。この作業を通して、各自の専門分野における、以後の研究と修士論文作成の基礎となるような知識・視野・技能を獲得することを目標とします。
--------	--

■授業の目的・ねらい	・文芸作品や思想文献、あるいは文化事象などについて、その背後にある歴史や社会状況への理解を深める。 ・研究論文の作法、構成を知悉し、それを公正に読解する姿勢を身につける。 ・先行研究論文の主張を理解し、さらにその根拠を批判する技能を身につける。 ・資料・文献の収集方法とその活用の技能を獲得する。 ・専門分野における研究と論文作成の基礎となる知識・視野を獲得する。
------------	--

■到達目標	日本語学・書道文化・日本文学（古典・近代）の研究方法及び修士論文作成のための基礎技能を習得することを目標とします。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	30	研究論文への意見を求めます。
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	各自の研究テーマについて発表を求めます。
・その他	0	

授業科目	中国文学研究基礎（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	若杉 邦子		シラバスグループ	MA0319	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	中国語学・文学の研究方法について理解する。
---------	-----------------------

■授業の概要	文学専攻において、中国文学系を主専攻として中国語学・文学を研究するにあたり、必要とされる学術的知識や研究上のスキルとは如何なるものであり、また、如何にして身につけるべきものであるか。本科目はその具体的な内容について、講義形式で解説するのみならず、時には中国語文献の収集や整理・分析・総括、討論の展開やレポート作成といった、受講者自身による基礎作業の実践、すなわち演習的アプローチをも取り入れつつ、その修得のための要点を教授することを通じ、研究および修士論文作成に向けての基礎形成をめざすものである。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①中国語学・文学を研究するために必要な基礎的知識をひととおり身につけることができる。 ②研究テーマに即して必要な文献（中国語、日本語、その他の言語）を収集するスキルが身につく、さらにはそれらの整理・分析といった作業も適切に行えるようになる。 ③②で収集したデータに基づき、討論を行ったりレポートを作成したりすることが可能となる。
------------	--

■到達目標	①中国語学・文学を研究するために必要な基礎的知識をひととおり身につけることができる。 ②研究テーマに即して必要な文献（中国語、日本語、その他の言語）を収集するスキルが身につく、さらにはそれらの整理・分析といった作業も適切に行えるようになる。 ③②で収集したデータに基づき、討論を行ったりレポートを作成したりすることが可能となる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	30%	
・授業内発表	30%	レジュメを用いての報告：20%、討論：10%の割合で評価する。
・授業内試験	0%	
・授業内課題	40%	レジュメ（報告資料）：20%、ミニレポート：20%の割合で評価する。
・その他	0%	

授業科目	英米文学研究基礎（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	松本 真治		シラバスグループ	MA0419	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	文学専攻英米文学系での研究方法の基礎を学ぶ
---------	-----------------------

■授業の概要	<p>・文学専攻英米文学系の主な研究領域は、英米文学、英語学、英語教育学である。この授業では、それぞれの領域の研究方法を概観した上で、研究論文の実例を取り上げて検討する。 ・また、英米文学研究の中でも、とりわけ馴染みの薄いと思われる英詩に関して、T. S. エリオット (T. S. Eliot) の『荒地』(<i>The Waste Land</i>)を具体例として取り上げて、精読した上で詩の分析を試みる。 ・さらに、各受講生が修士論文作成のために、どのような研究テーマ、どのような研究計画および研究手法を考えているのかを発表し、全受講生および担当者とのディスカッションを通して検討する。 </p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>・英米文学、英語学、英語教育学領域での研究方法の基礎を学ぶ。 ・英詩の精読および分析方法を学ぶ。 ・受講生各自の修士論文作成のための研究テーマ、研究計画および研究手法を深める。 </p>
------------	--

■到達目標	<p>・英米文学、英語学、英語教育学領域での研究方法の基礎を説明することができる。 ・英詩の精読ができる。英詩の分析ができる。 ・受講生各自の修士論文作成のための研究テーマ、研究計画および研究手法を明確に説明できる。 </p>
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	各自の修士論文作成のため研究テーマ、研究計画および研究手法について
・授業内発表	30	授業内での発表、ディスカッション
・授業内試験	0	
・授業内課題	20	予習プリントおよび事前学習
・その他	0	

授業科目	日本文学演習1 (秋期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	土佐 朋子	シラバスグループ		MA1539	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	万葉歌の世界とその表現の諸相
---------	----------------

■授業の概要	『万葉集』には、仁徳天皇時代のもとのとされる歌から、759年大伴家持による巻軸歌まで、およそ400年ほどの間に創作されたと見られる4516首が収録されている。そこには、言霊思想に基づく言語呪術の世界と、言語呪術に対する諦念から生じる抒情の世界とが混在しながら、日本文学始発期にあたる言語表現が変遷していく様相を見て取ることができる。 本授業では、演習形式で万葉歌を自力で読む力を養いながら、その表現の変遷の一端を考察してみたい。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①万葉集の歌を考察するための方法を身に付ける。 ②万葉の時代の言語表現や発想の特質について、一定の知識を身に付けると同時に、自ら主体的に考察する思考力を養う。 ③万葉歌の表現や発想についての理解を得ることにより、自らが取り組む日本文学作品の表現や発想を相対的に捉える視点を養う。
------------	---

■到達目標	①万葉集の研究方法を実践的に身に付け、自分の力で考察できるようになる。 ②万葉集の時代の文学創作活動について、主体的に考察できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	40	発表後に提出する定期試験のレポートを評価する。→授業時間外の学習欄を参照。
・授業内発表	50	発表資料、発表内容を評価する。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	10	発表者に対する質問や意見など、授業中における積極的な発言を評価する。

授業科目	日本文学演習2(夏期(大学院))Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	神原 勇介		シラバスグループ	MA1629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	『源氏物語』研究のための基礎分析作業を実践する。				
■授業の概要	『源氏物語』横笛巻を各自分担して、発表する。その際、河内本系諸本の有力伝本である尾州家本を底本として、影印本の翻刻、青表紙本系本文との対校、本文整定、本文への語釈、口語訳などの基礎的な作業を実践する。注釈書は本来網羅的に見ることが望ましいが、河内本系諸本とかかわりが深い『原中最秘抄』・『紫明抄』・『河海抄』等の古注釈書を重視し、検証したうえで読解に活用する。				
■授業の目的・ねらい	写本解読から口語訳による本文解釈まで、古典作品研究の基礎的な分析作業を実践する力量をつけてもらう。また、作業の底本として通行の本文系統である青表紙本系諸本ではなく、河内本系の本文を使用することで、古典作品ならではの異本を解釈する読解作業を体験してもらう。				
■到達目標	古典作品を自力で解釈するための基礎的な分析作業を身につける。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50				
・授業内発表	40				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	10	他の受講生の発表に毎回質問をしてもらう。			

授業科目	日本文学演習3 (春期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	濱田 泰彦		シラバスグループ	MA1719	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	近世中後期巷説説話集を読む
---------	---------------

■授業の概要	近世においては、仮名草子・浮世草子・読本・草双紙・合巻・滑稽本・人情本といった散文ジャンルが次々と簇生した。一方で、中世以来の説話集の伝統も途絶えなかった。 この授業には、近世の説話集を講読し、その特色と文学的意義について考察したい。とりわけ、多数刊行ないし執筆をみた「××奇談」の書名を有する版本説話集を講読対象とする。
--------	--

■授業の目的・ねらい	近世における「奇談(書)」の位置づけについては、従来怪談方面の研究において注目されてきたほか、近年では飯倉洋一氏は宝暦の書籍目録に「奇談」の項目が立てられている点に着目した論考を発表するに至っている。近世中期以降は、一無散人『(東国/奇談)東遊奇談』(寛政13・1801年初春刊)等日本の諸地域の奇景や怪談を蒐集した「奇談」を書名とした半紙本の書物が出版されている。 本授業では、主に中村元恒(撰)・堀内元鑑(筆録)『信濃奇談』(文政12・1829年2月序)を講読する。本作品は、高遠藩の儒学者阪本天山の学統につらなる儒学者であり医者であった、中村元恒によって編まれた信濃地方で生じた奇聞を集めた説話集である。学者らしい考証が加わっているのが特徴的な地方説話作品でもある。 本作品を精読することにより、広い視野で説話文学の歴史を捉え直すことができるようになるのが、この授業の目的である。
------------	---

■到達目標	広く日本文学作品の精読のための基本的な知識および手法が習得できる。とりわけ、近世文学作品を詳細に検討することにより、近世の文化・風俗が学習できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	40	近世期の「奇談」に関する課題に回答する。
・授業内発表	40	『信濃奇談』を分担して講読し、翻刻を行い適宜加注を施す。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	20	受講生同士で積極的に議論に参加する。

授業科目	日本文学演習4（秋期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	日高 佳紀		シラバスグループ	MA1739	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	日本近現代文学と出版メディア
---------	----------------

■授業の概要	近代以降の文学において出版メディアは、読者と作品言説が出会う場であり、そこでは期待の地平が開かれると同時に、読みの方向性が規制されることになる。また、初出発表後の単行本化やアンソロジーへの収録等、メディアが変更された際に生じる問題点も注目すべき要素が考えられよう。 本授業では、近現代日本文学における出版メディアの機能について、具体的事例に対するメディアの特性に関する調査分析と作品の言説分析をもとに、講義と演習を通して考察を進める。
--------	---

■授業の目的・ねらい	・出版メディアが文学に対して果たした機能について理解する。 ・出版流通と文学表現の関わりを関連づける分析方法を理解する。 ・社会文化状況と文学テキストを分析的に接続し検討する力を身につける。
------------	---

■到達目標	メディア研究の方法を身につける。文学作品に対する発表メディアの及ぼした影響を説明できるようになる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	日本語学演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	荻原 廣		シラバスグループ	MA1829	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	現代日本語の研究
---------	----------

■授業の概要	現代日本語の中から、各自問題を見つけ調べ、発表する。
--------	----------------------------

■授業の目的・ねらい	現代日本語の研究方法を身につける
------------	------------------

■到達目標	現代日本語について深く考え、また研究できるようになること。
-------	-------------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	40%	授業最終日を含み14日以内に提出すること。
・授業内発表	60%	レジュメをもとに、1人、3回発表しなければならない。
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	中国文学演習1（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	大井 さき		シラバスグループ	MA2529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	宋代詩文選読				
■授業の概要	宋代の詩または散文を読みます。 事前配布資料の本文を一語一語調べながら読み、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。 ※今年度は詩を読む予定です。				
■授業の目的・ねらい	宋代の詩または散文作品を読むことによって、中国の文語文献の読解力を高めることを目的とします。				
■到達目標	中国古典文の読解力を向上させると共に、読解対象とする作品と作者、および宋代の文学についての基礎的知識を修得することを到達目標とします。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50	授業の終了時にレポート課題について説明します。			
・授業内発表	50				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	中国文学演習 2 (夏期 (大学院)) A クラス_対面			単位	2.0
担当者	楊 韜		シラバスグループ	MA2629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	近現代中国の文学と演劇				
■授業の概要	この授業では近現代中国における文学と演劇の関連性に注目し、アダプテーションの理論と実践を学ぶ。授業では、主に具体的な作品を取り上げた関連論文を選読する。日本語で書かれた論文の場合、内容の要約と批評を行う。中国語で書かれた論文の場合、内容の要約と批評のほか、一部箇所の翻訳実践練習を行う。				
■授業の目的・ねらい	1) 目的：近現代中国の思想的・社会的歴史背景を学ぶ。アダプテーションの理論と実践を学ぶ。 2) ねらい：受講生が近現代中国の時代変遷および歴史背景の流れを把握するうえ、中国近現代文学史において興味関心を抱く分野や課題を発見し、今後の研究プランにつなぐ。				
■到達目標	1、アダプテーションの理論と実践に関する基礎的な理解を得る。 2、近現代中国の思想的・社会的歴史背景に関する初歩的な認識を得る。 3、現代中国語で書かれた史資料に対する一定の読解力および翻訳技能を得る。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	40				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	40				
・その他	20				

授業科目	中国文学演習3（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	瀬邊 啓子		シラバスグループ	MA2929	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	中国新時期文学を読む				
■授業の概要	韓東の短編小説「樹?間的月亮」、「父親的獎章」（『樹?間的月亮』作家出版社、1995、収録）の二作品を実際に読み、中国新時期文学における新状態小説や新生代と呼称された世代の作品を概観する。				
■授業の目的・ねらい	韓東は1998年に実施された”断裂”行為の主役の一人である。韓東と朱文を中心とする若手の作家たちが当時の中国の文藝状況に否やを表明し、また原稿料の安さであったり、作家協会や有名雑誌や文学賞など多岐に亘って批判を行い、世代の「断裂」を宣言した。しかし、その活動は広がりを見せることなく、いくつかの叢書やネット上での活動でいくらかの成果を残すに止まった。なかでも韓東はグループのなかにあつて、作家協会のメンバーであり、父親も有名な作家と、ほかのメンバーにはない背景を持ちながらも、“断裂”行為を積極的に行っている。彼の作品を読むことで、彼らの世代が持つ雰囲気と、“断裂”行為にいたる背景を考察していく。				
■到達目標	中国新時期文学の1980年代末～90年代の文学の流れを大まかにつかむことができるようになる。韓東作品を中国語で閲読することができ、作品の書かれた当時の状況を踏まえて、作品分析ができるようになる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	40	講義で扱った内容について、その理解度と自分なりの分析内容による。			
・授業内発表	60	講義で扱う作品の翻訳とその内容把握による。			
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	中国語学演習（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	劉 赫洋		シラバスグループ	MA2729	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	中国語文法				
■授業の概要	本授業では、普通話の基本的な文法事項についてさらに詳しく体系的な説明をおこなうとともに、練習問題を数多くこなすことで、初中級レベルの文法知識をよりいっそう定着させ、さらに高度なレベルへ学習を進めていくための足掛かりを築く。				
■授業の目的・ねらい	中国語文法に対する知識を深め、日本語や英語との違いを見ながら、漢語の特徴について理解を深める。				
■到達目標	中国語の文の構造を正しく分析し、意味を理解することができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	40%				
・授業内発表	30%				
・授業内試験	0				
・授業内課題	30%				
・その他	0				

授業科目	中国思想演習（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	鵜飼 光昌		シラバスグループ	MA2829	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	慧遠「仏影銘」を読む				
■授業の概要	廬山の慧遠（334?416）は、その最晩年、廬山に仏影台を作り、仏影を画いて仏の徳を讃嘆し、「仏影銘」を書いた。この銘は、仏馱跋陀羅等が西北インドで著名な仏影窟に参詣し、その様子を慧遠に伝えたことから成ったものであった。 授業ではこの慧遠の「仏影銘」の思想的特徴を明らかにする。				
■授業の目的・ねらい	慧遠「仏影銘」に述べられる、法身とその応現について理解することを目標とする。				
■到達目標	慧遠「仏影銘」における法身とその応現、さらには中国思想の影響を理解することを到達目標とする。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50				
・授業内発表	50				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	英米文学演習1 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	野谷 啓二		シラバスグループ	MA3529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	20世紀最大の詩人・批評家と言っていい、アメリカ出身でイギリスに帰化した T.S.エリオットの傑作『四つの四重奏』(Four Quartets)を精読します。				
■授業の概要	T.S.エリオットの『四つの四重奏』を始めから終わりまで原文で読みます。ただし、時間の制約上、カットする部分もあります。具体的な授業の進め方は、まず受講者に数行ずつ音読していただき、意味を言ってもらいます。教員はこの受講者の「発表」について、文法的に正確であるかどうか、つまり文字どおりの読みが的確であるかどうかのチェックを行い、つぎにこれまで行われてきた解釈を適宜紹介します。さらに受講者の皆さんの「読み」「連想」などの意見をクラスで共有する形で進行します。				
■授業の目的・ねらい	エリオットの思想の根幹である、キリスト教の世界観と人間観について基礎的な知識を得る。 文学とは何か、他者が書いたテキストを読むとはどのような行為であり、どのような意味があるか考える。また大学でこのようなことを実践する意義は何なのかについて原理的に考察する。				
■到達目標	1. キリスト教信仰の基礎的な知識を得る。 2. T.S.エリオットの詩と思想について基礎的理解を得る。 3. 文学研究の意義について、自分なりに説明できるようになる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50				
・授業内発表	50				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	英米文学演習2(夏期(大学院))Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	持留 浩二		シラバスグループ	MA3629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	本講義では、文学研究における様々なアプローチを解説しながら、具体的な英米文学の作品を取りあげ、実際に受講生に作品解釈を行ってもらう。純粋な客観科学とは違い、文学において作品解釈には唯一の正しい答えがあるわけではない。各作品はその作品を取り巻く時代や地域といった様々なコンテキストに左右されるし、各読者もそれぞれの主観を免れることはできない。作品解釈とは、そういったコンテキストを含めて作品を読み解いていくことであり、読者も含め、作品に描かれている人間性を理解することなのである。				
■授業の概要	授業では、配布資料を用いて様々な文学批評理論の解説をする。その際、それぞれの批評理論について受講生とディスカッションしながら授業を進めていく。また受講生には、実際に具体的な作品を使って批評理論を使った簡単な批評をしてもらう。				
■授業の目的・ねらい	作品解釈には様々なアプローチがあるので、まずはその基本的なアプローチについての理解を目指す。その上で、それらのアプローチを用いて、具体的な作品に関して説得力ある作品解釈ができるようになることが目標である。				
■到達目標	様々な文学批評理論を理解すること。また批評理論を用いて具体的な作品を批評できるようになること。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	70				
・授業内発表	30				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	英語学演習1 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	稲永 知世	シラバスグループ		MA3729	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	言語使用 (language use) と階層、職業、性差といった社会的要因の関係に迫る。
---------	---

■授業の概要	私たちが日々使うことば (話し言葉および書き言葉) は、「真空状態にある (in a vacuum)」わけではなく、階層、職業、性差といったさまざまな社会的要因から影響を受ける。 (1) 本授業では、社会言語学 (sociolinguistics) に関する英語の文献を精読しながら、私たちが日常生活において使用することばと階層、職業、性差といった社会的要因にはどのような関係があるのかについて考える。 (2) この視点に基づいて、上記手法を用いながら、実際の自然談話における言語使用 (映画、ドラマなど) のデータを分析し、社会における言語使用に迫る。
--------	--

■授業の目的・ねらい	(1) 英和辞典・英英辞典を丁寧に引きながら、英文の構造を論理的かつ正確に捉えることにより、英文を正確に理解する能力を身に付ける。 (2) 私たちが日常生活において使用することばと階層、職業、性差といった社会的要因にはどのような関係があるのかを考える力を身に付ける。
------------	--

■到達目標	(1) 英和辞典・英英辞典を丁寧に引きながら、英文の構造を論理的かつ正確に捉えることにより、英文を正確に解釈することができるようになる。 (2) 私たちが日常生活において使用することばと階層、職業、性差といった社会的要因にはどのような関係があるのかを考察することができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	40	社会言語学 (sociolinguistics) の観点にもとづいて、言語使用 (language use) と階層、職業、性差といった社会的要因の関係を分析し、考察するレポートを書いてもらいます。
・授業内発表	40	テキストをどの程度正確に読むことができているかに基づいて判断します。
・授業内試験	0	
・授業内課題	20	当日配布資料の課題にどの程度取り組んでいるのかに基づいて判断します。
・その他	0	

授業科目	英語学演習 2 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	Henry Foster		シラバスグループ	MA3829	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	Doing things with language: an introduction to pragmatics				
■授業の概要	In this class, we will consider how speakers and writers use words to convey meanings. Pragmatic theory examines how context contributes to meaning, how human language is used in social interaction, and the relationships between the speaker, the listener, and the message. We will touch on relevant topics including the cooperative principle, implicature, speech act theory, the principle of politeness, and face, and explore these topics by analysing samples of discourse.				
■授業の目的・ねらい	This course aims to equip students with a basic working knowledge of pragmatics, and the ability to understand and discuss pragmatics in English.				
■到達目標	Students will be able to understand and explain the basic concepts of pragmatics, such as premise, implication, explicit and implicit meaning, speech acts, politeness, and relevance, and will be able to apply this knowledge to analyze discourse.				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	60				
・授業内発表	40				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	書道研究(夏期(大学院))Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	松宮 貴之		シラバスグループ	MA4429	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	王羲之という思想				
■授業の概要	日中書法交流史の中でも、その中心的存在である王羲之の人と書について中心に学習する。ムスビという習俗思想と近世以降の哲学としての書の両側面から、中世の実像に迫る。後半その書美を迫体験するために実技指導を加える。				
■授業の目的・ねらい	日中の書法思想の交流がどのようにされてきたかを理解させたい。さらには実技を加えることにより体感することを目的とする。				
■到達目標	王羲之の思想と書について理解できたかどうかが到達目標である。日中の書の歴史を学ぶことにより、その関係性がいかに深いものであるかを考察しなさい。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	70%				
・授業内発表	0%				
・授業内試験	0%				
・授業内課題	30%				
・その他	0%				

授業科目	漢文学研究(夏期(大学院))Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	浜畑 圭吾		シラバスグループ	MA4529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	高野参詣記の研究				
■授業の概要	弘法大師空海の開いた高野山は、治安三年(1023)の藤原道長による参詣を契機として多くの貴賤を集めた。その記録として漢文で記された参詣記が多く作成されている。本講義では室町期の代表的文化人であった三条西実隆による大永四年(1524)の参詣を記録した『高野真名記』を取り上げる。実隆は漢文による『高野真名記』の他に、仮名で記した『高野参詣日記』も残しており、両書を比較することで、それぞれの特徴について考える。				
■授業の目的・ねらい	漢文による紀行文の特徴を理解する。				
■到達目標	漢文による紀行文を理解し、その特徴を述べることができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	60				
・授業内発表	10				
・授業内試験	0				
・授業内課題	20				
・その他	10				

授業科目	異文化接触研究（中国）（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	劉 赫洋		シラバスグループ	MA4629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	中国語と中国文化				
■授業の概要	「ことば」には、それを話す人々の文化や考え方、ものの見方などが様々な形で反映されるものである。この授業では、「中国語」ということばを通して、中国語母語話者がどのようなものの考え方や出来事の捉え方をしているかを考え、「中国人」や「中国文化」についての理解を深める。				
■授業の目的・ねらい	・中国語母語話者の考え方、モノの見方について理解を深める。 ・中国の文化について理解する。				
■到達目標	・中国語母語話者が、どのような考え方や物の見方をしているか、日本人との違いを明確にしながら説明することができる。 ・中国の言語と文化の関わりについて説明することができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	50	授業内容の理解度をはかる小テスト、またはミニレポートを実施します。			
・その他	0				

授業科目	異文化接触研究（英米）（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	メドロック 皆尾 麻弥		シラバスグループ	MA4729	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	日本と英国、米国との相互関係とその歴史
---------	---------------------

■授業の概要	日本と英米両国との関わりの歴史をまずは把握する。その後、両国との交流についていくつかのテーマに分けて考察する。映画等も使用し、日本の英国、米国に対する見方、またその逆からの視点について考察する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	本科目では、おもに日本と英国や米国との交流を研究対象とする。日本は、鎖国していた江戸時代にも、長崎の出島を通して西欧とはほぼそと交流していたが、西欧との本格的で直接的な交流が始まったのは19世紀中頃である。それ以来、米国と英国との交流は長く深い。その両国との関係のなかで、日本がどのような影響を受けたか、また両国が日本からどのような影響を受けたかを考察・理解するための講義をおこなう。それを通して、受講生の異文化を理解するための能力を高めることを目的とする。
------------	---

■到達目標	到達目標 ①日本と英国、米国がどのような歴史を経て交流してきたかを理解する。 ②日本と英国、米国がお互いに持つイメージの変遷について理解する。 ③日本と英国、米国がどのような影響を相互に与え合っているかを理解する。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	60	
・授業内発表	40	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	日本文学研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	坂井 健		シラバスグループ	MA6529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	没理想論争を読む				
■授業の概要	森鷗外と坪内逍遙による近代文学史上最大の論争といわれる没理想論争について、初出、再録、あるいは再再録などの異同を確認しながら、現代語訳・注釈をし、問題点を考える。				
■授業の目的・ねらい	書誌的知識の確認、異同確認との作業の確認、語学的知識の確認、文化的知識の確認、問題設定のための意識の養成。				
■到達目標	近代の文献の読解のための基礎的知識を獲得する。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	40				
・授業内発表	30				
・授業内試験	0				
・授業内課題	30				
・その他	0				

授業科目	中国文学研究（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	李 冬木		シラバスグループ	MA6629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	周樹人から魯迅へ—留学時代を中心に—				
■授業の概要	本研究は、周樹人の1902年から1909年に至る日本における留学経験と精神構築が、彼自身が中国近代文学の開拓者（魯迅）に羽化する過程において要となる役割を果たし、彼がひとりの「近代」作家としての知性を完成する準備段階であったと考える。今回の授業は、これまでの研究の基礎の上に、周樹人と日本書から着手し、具体的には進化論の方面から『物競論』、丘浅次郎；国民性思想方面の『支那人気質』、『国民性十論』；個人主義方面から桑木厳翼、煙山専太郎、登張竹風；文学観方面から齋藤信策等の問題について実証研究をすすめることによって、周樹人が明治30年代の文化的背景の下で実際に直面した「西洋」を明らかにする。				
■授業の目的・ねらい	「周樹人から魯迅へ」「天演から進化へ」「『支那人気質』と魯迅」「『国民性十論』と魯迅」「明治時代のニーチェ及びその周辺」「煙山専太郎のスティルネル」「齋藤野の人と魯迅」等の課題を通して、魯迅文学の成立を理解してもらいたいのは本研究の目的である。その目標は近代日中両国の文献を閲読する能力を高め、日本留学期の魯迅と同時代の日本書との関係という側面を通して、文学者魯迅における日・中近代文学交流の実態に迫る。				
■到達目標	留学生周樹人が明治日本という異文化の中で、いかにひとりの作家として形作られるかという内的精神のメカニズムを明らかにするとともに、近代日中両国の文献を閲読する能力を高める。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	60%				
・授業内発表	20%				
・授業内試験	20%				
・授業内課題	0%				
・その他	0%				

授業科目	英米文学研究（夏期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	清川 祥恵	シラバスグループ		MA6729	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	英国のSF作家、H・G・ウェルズの小説『タイムマシン』（The Time Machine）を精読する。				
■授業の概要	Science Fiction は、19世紀以降、utopia 文学の一形態として盛んに創作されている。文学の中では新興のジャンルではあるが、ウェルズ以降、さまざまな作品が社会と科学の関係について時に警鐘を鳴らし、時により良いモデルを示すことに貢献してきた。文学の読解の訓練とともに、文学を通して社会の姿を見る方法を学ぶ。				
■授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学的描写をより正確に読み解く力を養うことができる。 ・ Science Fiction ジャンルの知識を身につけることで、英文学ならびに世界文学史の理解を深めることができる。 ・ フィクションのなかに描かれている未来像を通して、当時の社会情勢を洞察する力を磨く。 				
■到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想像的な文学を読解する力を会得する。 ・ 文学作品の歴史・社会背景を理解する。 				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50				
・授業内発表	50				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	歴史学研究基礎1（春期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	貝 英幸		シラバスグループ	QA0119	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	歴史学研究の意義とその方法				
■授業の概要	<p>本科目では、歴史学研究法の基礎的な事項に関する理解をふりかえるなかで、高度かつ専門的な歴史学研究に携わる者として、自らの研究方法を模索することをねらいとする。 本科目がふりかえりの対象とする事項は、 1) 歴史学および関連諸学の研究対象とその特徴 2) 研究テーマ移り変わりの社会的・学術的背景 3) 歴史学研究の意義と社会的使命 以上の3点とするが、実際の講義においては、各事項の下に課題（小テーマ）を設け、小テーマについての講義と受講生のまとめによる議論を繰り返し理解を深める。</p>				
■授業の目的・ねらい	<p>1) 「歴史学」という学問体系全体の特徴・特性について理解するとともに、ごく最近の「歴史学」の動向を知る。 *日本の史学研究において「マルクス主義的歴史学（唯物史観）」が果たした意義 2) 過去（歴史）を探る学問である「歴史学」が研究対象とする分野や領域を理解するとともに、自らの研究の立脚点（立ち位置）を知る。 *その前提として、歴史学研究のごく基本的なメソッド（考え方、まとめ方など） 3) 「歴史学」の（オーソドックスな）研究法を知り、自らが採る研究方法との関係を整理する。 *文献史学の研究手法とその特徴、関連諸分野・領域の研究手法との関係 </p>				
■到達目標	<p>1)歴史学研究の変遷についてその概要を理解する。 2)歴史学研究の意義、社会的使命について理解する。 3)歴史学研究の主たる方法を理解し、自らの研究方法を模索する。</p>				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	70				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	30				
・その他	0				

授業科目	歴史学史料演習1（夏期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	相澤 みのり		シラバスグループ	QA1129	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	日本の幕末から近代における史料の解読と解釈を学ぶ。				
■授業の概要	学生が配布された史料を講読し、それを踏まえて史料の取り扱い方やその意義を考察する。				
■授業の目的・ねらい	本授業の目的とねらいは以下の3点である（いずれも日本史）。 ①近代の活字史料を解読する能力を向上させる。 ②幕末から近代の史料（初級）を講読できる能力を身に付ける。 ③史料収集についての基本的な事柄を既知のものにする。 以上のことを習得し、自らの論文作成を迅速にそして正確にできるようになる。				
■到達目標	①授業で取りあげる史料を通じて日本近代史の史料の読み方を習得できる。②近年、歴史史料がインターネットで利用できるようになっている現状を踏まえ、それらを有効に自らの歴史研究に利用できるようになる。③活字史料だけでなく、古文書史料（くずし字初級）を解読し、その歴史的意義を理解できる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	50	レポート試験にて実施する。 史料の復刻を指示します。			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	50	教員の指示に従って史料を講読し、発問に回答する。			
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	歴史学史料演習1 (夏期 (大学院))B クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	山崎 覚士		シラバスグループ	QA1229	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	『十国春秋』講読				
■授業の概要	近世に中国で編纂された五代十国時代に関する史料『十国春秋』を講読する。講読にあたっては、史料批判・内容の理解に重点を置く。				
■授業の目的・ねらい	漢文史料の正確な読解、および他の史料との対比による史料批判ができるようになる。また史料講読を通じて、当該期の歴史を考察することができるようになる。				
■到達目標	①漢文を的確に読み下し文にできる。 ②漢文を正確に現代語訳できる。 ③漢文の内容を理解したうえで、歴史を考察することができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	60	レポート試験にて実施する。 授業で学修したことにもとづいて、適格に漢文を書き下し・現代語訳できているかを基準にします。			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	40	しっかりとした事前学修に基づき、発表できているかを基準にします。			
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	歴史学史料演習2（夏期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	駒井 匠		シラバスグループ	QA1329	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本古代史料の読解と解釈
---------	--------------

■授業の概要	史料読解は日本史研究の基礎である。この授業では、古代史を研究する上で必要な史料の読解能力の養成・向上を目指す。史料の読み下しや解釈、考察の方法を学ぶ。
--------	---

■授業の目的・ねらい	この授業では、古代史の主要な史料の読解方法の習得を目指す。日本古代史の史料は基本的に日本漢文になる。そのため辞書の使用は必須である。基本的なことではあるが、辞書の適切な使用が求められる。また史料を用いた考察には、史料から論点を見つける能力や、それと関わり先行研究の調査する技能も必要不可欠である。これらのも習得を目指したい。
------------	--

■到達目標	①辞書を適切に使用し、古代史料を読解できる ②史料を読み、自分の言葉で解釈できる。 ③史料に基づく考察の方法を習得できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	70	レポート試験にて実施する。 史料の読解と考察を主としたレポートを課す。
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	30	事前に配付した史料の予習具合を加味する。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	歴史学史料演習2（夏期（大学院））Bクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	李 昇燁		シラバスグループ	QA1429	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	『東亜日報』『朝鮮日報』社説からみる朝鮮社会と植民地統治				
■授業の概要	日本統治下の朝鮮で発行された朝鮮語新聞『東亜日報』『朝鮮日報』は、政治活動や自由な言論が弾圧されている中でも、朝鮮人社会の声を代弁するものであった。植民地統治に対する被支配民族社会の視点や意見を把握するため、とても重要な史料といえる。本授業では、両新聞の社説のうち、史料的に重要性を持つものを選読する。				
■授業の目的・ねらい	『東亜日報』『朝鮮日報』に掲載された社説を読むことにより、以下のことを目的とする。①東洋史（朝鮮史）における韓国語（朝鮮語）史料利用のトレーニングを行う。②日本統治下の朝鮮人社会および朝鮮民族運動の政見や主張を知る。③以上によって、植民地統治下における朝鮮社会の歴史像を探る。 到達目標は下記の通りである。①工具書（辞書を含む）を活用しながら、韓国語（朝鮮語）史料利用ができるようになる。②当該時期の出来事について調査する方法を身につける。③世界史の脈絡で特定地域の歴史を探る視点を得る。 成績評価は、授業中の輪読内容（韓国語の解釈、関連事項の調査、内容に関する討論）を基準とする。				
■到達目標	（1）外国語史料（韓国語史料）の読解、歴史史料としての利用方法を知る。 （2）日本の朝鮮植民地統治と朝鮮民族運動の諸相についての理解を高める。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	100	予習、読解の程度で評価する。			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	歴史学特殊研究3（秋期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	小山 哲	シラバスグループ		QA1539	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「近現代の歴史学と歴史認識をめぐって??日本とポーランドの事例から」 19世紀のドイツで成立した史料批判にもとづく近代歴史学は、欧米諸国、さらには日本を含む世界の各地域の学術界で歴史研究のモデルとして受け入れられていった。ただし、その受容のあり方は、それぞれの地域・国家のおかれた状況によって一様ではない。 この講義では、日本とポーランドの歴史学の歩みのなかから具体的な事例をいくつかとりあげ、世界史と国民史の関係、時空間で分割された歴史学の編制、国境を越えた歴史研究者の対話など、近現代の歴史学が直面する諸問題について考えてみたい。
---------	---

■授業の概要	近代的な学術研究としての歴史学は、それ自体が歴史的に構築された学知の領域である。近代の歴史学は、近代的ネイション（民族・国民）の形成と密接な関係をもちながら成立し、発展してきた。この講義では、日本とポーランドの史学史のなかからいくつかの事例をとりあげ、近現代のグローバルな空間のなかで歴史にかかわる学知や過去の記憶がどのように形成されてきたか、政治的・社会的・文化的な文脈をふまえて考える。講義の内容をふまえて、受講生と教員で議論する時間を授業内に設ける予定である。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①近代に成立した歴史学の学知としての特質を、歴史的に理解することを目指す。 ②特定のネイションの歴史学（ここでは日本史学とポーランド史学）の歴史的特徴を、近現代のグローバルな空間のなかで、比較史と関係史の視点から把握する。 ③歴史研究者によるトランスナショナルな対話がもつ可能性と直面する問題点について、具体的な事例をふまえて考える。
------------	---

■到達目標	①近代に成立した学知としての歴史学の特徴を、歴史的に理解する。 ②ナショナル・ヒストリーが成立・発展した経緯を、近現代のグローバルな空間のなかで把握する。 ③歴史や記憶をめぐるトランスナショナルな対話がもつ可能性と直面する問題点について、受講生自身の研究と関連づけながら認識する。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	30%	第14回の授業で行なうディスカッションへの参加の内容を評価します。
・授業内試験	70%	第15回の授業で、講義内容について論述式の筆記試験を行いません。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	歴史文化資料演習1 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	八木 透		シラバスグループ	QA1629	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	民俗学関連領域の大学院での学習と修士論文執筆にむけて				
■授業の概要	歴史文化領域の研究、特に民俗学の研究方法と民俗資料の種類や扱い方について学ぶ。さらに修士論文執筆に向けての留意点について、受講生全員で考える。				
■授業の目的・ねらい	歴史資料と民俗資料の基本的な相違について理解するとともに、民俗学における先行研究の整理と研究方法論について学び、さらに民俗資料とは何か、「民俗」とは何かについて、具体的な事例から考える力を養う。				
■到達目標	歴史学と民俗学の基本的な相違は何か。民俗資料とは何か、「民俗」とは何かについて考える力を修得するとともに、民俗学における論文執筆の方法と留意点を具体的に習得すること。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	50	レポート試験にて実施する。			
・レポート試験(SR履修)	0				
・授業内発表	30	受講学生による研究発表			
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	20	授業内容に対するコメント、議論への参加			

授業科目	歴史文化資料演習2(夏期(大学院))Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	堀 大介		シラバスグループ	QA1729	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	考古資料による歴史の構成
---------	--------------

■授業の概要	<p>考古資料を主体として、文献史料・民俗資料その他の関連資料を参照して、考察を行い、事実を元にして歴史を構成する方法を学習する。講義の種別が演習であるため、受講生各自に、このような方法を用いて、受講生に発表をしてもらい、考古資料と民俗資料・文献史料など異種の史料・資料を用いた研究方法を実地に試行してもらう。あわせて、考古資料そのものの観察を行い、その知見を提示する方法も体験する。1日目は教員による時代別・対象別の考古資料による歴史構成の講義と受講生によるワークショップを一つの講義単位として、数講時を行う。2日目、3日目は小テーマを題材として、受講者による簡単な発表と討議を行う。発表内容は事前に送付した発表課題集から受講生各自が選択し、発表資料を作成し、初日に持参すること。発表時間は各自30～40分程度とし、その後、適宜、討議を行う(討議の時間等は受講生の人数によって随時変更する可能性がある)。また、3日目の最後に各自の発表内容(他の受講生からの質疑応答の内容などを含む)をまとめた小レポートの作成を行う。</p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>目的とねらい 1 考古資料を用いて歴史を考察する方法を学修する。 2 考古資料のもつ特性を認識する。 到達目標 1 考古資料を用いた歴史叙述を体験する。 2 考古資料を論じる基礎的な方法を学修する。 成績評価の基準 1 初日のワークショップでの討論(20点) 2 2、3日目の発表(60点)と討論(10点) 3 3日目の前日の発表内容に対する小レポート(10点)</p>
------------	---

■到達目標	<p>1 考古資料を用いた歴史叙述を体験する。 2 考古資料を用いた発表と質疑応答の基礎的な方法を学修する。</p>
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	10	レポート試験にて実施する
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	60	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	講義に関するワークショップと発表に関する質疑応答
・その他	0	上記の成績評価の詳細は次のようになります。 1 初日のワークショップでの討論(20点) 2 2、3日目の発表(60点)と討論(10点) 3 3日目の前日の発表内容に対する小レポート(10点)

授業科目	歴史文化特殊研究3 (秋期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	奥 健夫		シラバスグループ	QA2039	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	仏像研究の視点				
■授業の概要	日本の仏像の特質を考えるうえで重要な視点を提示する				
■授業の目的・ねらい	日本の仏像を主な対象とし、さまざまな角度からその特質を探ることで、宗教美術研究の意義と可能性を認識させる				
■到達目標	作品からのさまざまな情報の引き出し方および、得られた情報を用いての論の組み立て方を学ぶ				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	0%				
・授業内発表	0%				
・授業内試験	50%	毎日の講義終了後(当日中)の各回分に関する簡単な感想の提出			
・授業内課題	50%	全講義終了後のレポート提出			
・その他	0%				

授業科目	歴史学フィールドワーク（秋期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	網島 聖		シラバスグループ	QA4139	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	人文地理学のフィールドワークに関する講義と近隣での地場産業に関するフィールドワーク実習
---------	---

■授業の概要	地域の歴史や地理を正しく理解するためには、フィールドワークを適切に行うことが欠かせない。この講義では、人文地理学のフィールドワークにおいて留意すべき諸注意点について学んだ上で、実地での巡見調査を体験する。まず、初日にはフィールドワークの理念や方法論について概説した上で、各種地図資料や文献資料を用いた事前の下調べについて座学で学ぶ。その上で、2日目には京都市の代表的な地場産業の一つである清水焼をテーマに実地のフィールドワークを体験し、テーマに沿ったフィールドワークの計画と実施について考える。
--------	---

■授業の目的・ねらい	この講義の目的は、人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論について学習することで、フィールドワークの意義を正しく理解し、適切に実施する能力を涵養することにある。これにより、受講者各人がそれぞれの研究課題に対して適切なフィールドワークを計画できるようになることを目指す。したがって、受講者には常に学んだ内容を自身の関心や興味の対象に当てはめて応用する視点を持って参加していただきたい。成績評価については、フィールドワークへの参加状況、およびレポートによって評価する。
------------	--

■到達目標	①人文地理学のフィールドワークにおける理念を理解している。 ②人文地理学のフィールドワークにおける方法を適切に用いることができる。 ③自身の研究課題に対して、適切にフィールドワークを計画し、実施することができる。。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	70%	レポートの体裁を整え、設題に沿った内容で論理的に記述できているかを評価します。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	30%	フィールドワークへの積極的な参加状況を評価します。

授業科目	外国語文献研究（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	水田 大紀		シラバスグループ	QA4239	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	英語で書かれた文献を読む				
■授業の概要	イギリス近現代史に関連した英語文献を会読し、そこで注目されているテーマや論点について理解する。本演習では、英語の逐語訳を通じた読解能力の向上とともに、背景となる歴史的知識や専門用語の調べ方など、英語文献を読む際に必要な技術についても説明する。				
■授業の目的・ねらい	授業の目的は以下のとおりである。 ① 外国語で歴史学の研究文献を読解でき、得られた情報を自身の言葉で摘記・別言・分類できる。 ② 過去の歴史の中で、一つあるいはそれ以上の時代について詳細な知識を得る。 ③ 特定の時代の文献を研究するのに必要な特別な手段について知識を持ち、それを活用することができる。				
■到達目標	到達目標は以下のとおりである。 ① 歴史学に関連した文献の読解が適切に行えるようになる。 ② 文献の内容から論点を的確に把握できるようになる。 ③ 工具書が適切に使えるようになる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	40	成績評価は、受講終了後の課題レポートにおいてテキストの内容・論点を体系的に把握できているかなど、講義の理解度を測り、それに講義への意欲的な取り組み（特に授業内発表）を踏まえて、総合的に評価する。			
・授業内発表	60				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	歴史情報資源論（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	渡 勇輝		シラバスグループ	QA4639	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	初期民俗系雑誌を読解する
---------	--------------

■授業の概要	日本民俗学の記念碑的な雑誌として知られる『郷土研究』は、読者投稿コーナーを活用することで広範な情報のネットワークを形成した。『郷土研究』に寄せられた民俗文化の情報は、その後の柳田国男の学問の基盤となったが、一方で投稿した読者たちについては、わかっていないことが多い。 本授業では、デジタル化資料を活用しながら、当該期の民俗文化のありようや情報提供者の素性を解明し、民俗系の雑誌に記された情報を立体的に把握する能力を養う。
--------	--

■授業の目的・ねらい	雑誌資料に残された断片的な情報に対して、適切な注釈や考察を行うことを目的とする。 デジタル化された資料を活用しつつ、当該期の社会や思想に対して展望をもつことができるようになることをめざす。
------------	--

■到達目標	（１）近代の雑誌資料を読むことができる。 （２）雑誌資料に残された断片的な情報に対して適切な注釈を施すことができる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	報告内容にもとづいたレポート
・授業内発表	50	『郷土研究』の読解を行う
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会学理論研究（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	大貫 拳学	シラバスグループ		TC0119	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	主体化と権力
---------	--------

■授業の概要	<p>ミシェル・フーコーは、近代における権力の巧妙さを明らかにした哲学者である。フーコーによれば、（自律性が想定される）主体とは権力によって生産されたものである。こうした議論は、社会学理論に大きな影響を与えてきた。本授業では、フーコーを導きの糸として「主体化」という問題を考えたい。 社会学理論において、構造と行為、マクロとミクロ、客観と主観の関係の把握が、重要な論点となってきたが、それらは社会と主体の関係として捉え直すことができる。したがって、フーコー理論を検討することは、社会学理論の課題を確認することにもなるだろう。</p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>フーコーの議論や概念（「解剖政治学」「生政治学」「生権力」など）を理解するとともに、主体化論の（社会学理論としての）意義を確認することが本授業の目的となる。</p>
------------	---

■到達目標	<p>フーコーの理論や諸概念を理解するとともに、社会学理論の課題を確認すること。</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	70	
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	ソーシャルマネジメント理論研究（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	原田 徹		シラバスグループ	TC0519	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	政治的価値観・対立軸を現代ヨーロッパ政治から把握する
---------	----------------------------

■授業の概要	世界各国の政治情勢を観察してみると、社会的に大きく意見が分かれる「分断」状況があったり、移民を忌避する勢力などが「ポピュリズム」と呼称されて、従来の主要な政治勢力を脅かすような状況が生じている。混迷を深める日本政治でも、政治的な争点が一過性のものにすぎなかったり、SNS等の新たな選挙手法の是非などが着目されたりしながらも、基底的な政治的対立軸があいまい化している節がある。この授業は、それを捉えやすくするための見取り図を得ようとするものである。
--------	---

■授業の目的・ねらい	本講義は、このような今日見えづらくなってきている、政治的な価値観の対立構造への理解を深めることで、公共政策や政治に接するうえでの基盤の確立を図る。そのための素材として、現代ヨーロッパの政治をEUの動きとともに考えていくこととする。「右」「左」「リベラル」「保守」等の政治的価値観の意味づけやそれらの争点の絡まり合いを理解することで、個別の公共政策の意味づけのされ方への洞察を深める。ヨーロッパ諸国は、日本とは別の国だから関係ないと考えるのは早計であり、社会における人びとの価値観には大きく重なるところもあるので、比較を通じて実りある学びが可能である。成績評価については最終講義後に行うレポート課題によって評価する予定である。
------------	--

■到達目標	国・自治体を問わず、展開されている公共政策にはさまざまなものがあるが、それらを支えている政治的価値観にもさまざまなものがある。その価値観の違いによっては、分野が異なる公共政策のあいだでの優先順位が変わってくることもあれば、「よくない」と意味づけされてしまう公共政策もあるだろう。このような政治的価値観の違いへの感度・洞察力を高めおくことは、多様な価値観を有する人びとが共存する社会で合意形成を図っていくうえで必須である。それを身につけるのが目標である。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	100	与えられた課題に関して、「論題が明確か曖昧か」、「構成が論理的か」、「議論（主張がきちんとされているか）」、「リサーチ（適切な資料を見つけ用いているか）」、「創造性（テーマの選択や取り扱いに独自の見解があるか）」による判断を行う。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会学演習1 (社会文化) (春期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	大谷 栄一		シラバスグループ	TC3119	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	現代日本の公共空間における宗教の役割——「お寺の社会活動」から考える
---------	------------------------------------

■授業の概要	<p>宗教は個人の内面や心の問題であり、日本国憲法の政教分離の原則により、宗教団体は政治や社会に関わることができない、という「常識」がある。この講義ではそうした「常識」を相対化し、現代日本の公共空間で宗教が果たしている機能や役割、その意味について再検討したい。 その具体的な事例として、現代日本の仏教者や仏教団体、寺院の社会活動（社会問題の解決や人々の生活の質の維持・向上に寄与する活動）を取り上げる。子育て支援、貧困問題、グリーンケア、終活、仏教系アイドルのプロデュース、NPO との協働、女性の活動など、幅広い活動を紹介する。 なお、テキストでは言及されていないが、2022年7月の安倍晋三元首相殺害事件以降に顕著になった「統一教会問題」についても補足的に説明し、「宗教と公共空間」の問題について深く掘り下げて検討する。 </p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>本講義の目的は、現代日本の公共空間における宗教の役割（宗教の公共的役割）を再検討することである。現代日本の宗教者や宗教団体は個人の私的領域への関与のみならず、社会の公共的領域で積極的な社会参加を行っている。2000年代以降の日本仏教界ではそうした傾向が強まっている。とりわけ、2011年の東日本大震災では数多くの仏教者や仏教団体が被災地の復興支援活動に取り組み、そうした活動が社会的にも注目された。 この講義では現代日本の仏教者や仏教団体の社会活動を、「宗教の社会貢献」や「宗教とソーシャル・キャピタル」等の視点から分析し、「宗教の公益性・公共性」「新しい公共と宗教」「地域ガバナンスへの参画」「宗教の社会福祉活動」「臨床現場への関わり」といったテーマ群について考察することで、「現代社会と宗教」の関係に関する新たな見取り図を提示することをめざす。 </p>
------------	---

■到達目標	<p>(1) 宗教の社会活動（社会貢献活動）について知る。 (2) 宗教の公益性・公共性に関する議論を把握する。 (3) 公共空間における宗教の役割を理解する。 </p>
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会学演習 2 (社会情報) (秋期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	大場 吾郎		シラバスグループ	TC3139	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	大衆芸能の越境
---------	---------

■授業の概要	戦後、日本とアメリカの間で大衆文化交流が盛んになる中、日本の芸能人が渡米し始め、現地で映画やテレビ番組への出演、音楽や演劇の公演など様々な芸能活動を行った。実際に1949年からは日本国内で人気の高かった俳優や歌手がハワイやアメリカ本土を訪れ、日系人を対象に公演巡業を行っている。また、1950年代半ばに渡米した少女歌手たちはアメリカの一般大衆に向けて新しい日本を印象づけ、両国間における大衆文化の懸け橋としての役割を期待されている。講義では、このように1950年代から60年代にかけて渡米した芸能人の意図や表象を通して活動の実相と意味を検討することによって、大衆芸能の越境とそれを受け入れたアメリカ社会や文化との相互関係を歴史のおよび今日的視点から考察・解明することを目的とする。講義はセミナー形式とし、受講者の主体的な議論参加を促す。
--------	--

■授業の目的・ねらい	メディア研究や大衆文化研究における理論的枠組みや方法論を理解し、それらを自らの関心領域における調査・研究へ適用させる力を高める。
------------	--

■到達目標	大衆芸能の国際的な展開に関して理解を深めるとともに、学術的な視点で考察する。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	100	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会学演習3（共生臨床）（夏期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	柳下 実		シラバスグループ	TC3129	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	ジェンダー視点の大枠を理解する				
■授業の概要	ジェンダーや家族などを対象とした論文を読み、ジェンダーの視点から自分の興味があるトピックについて考察できることを目的とする。さまざまな文献を読み、批判的に引用できるようになることも目的の一つである。				
■授業の目的・ねらい	1. ジェンダー視点の大枠を理解する 2. 複数の論文を引用しながら、自らが興味のあるトピックについてジェンダーの視点から議論できる 3. さまざまなジェンダーにかんするトピックについての概論的な知識を得る				
■到達目標	1. ジェンダー視点の大枠を理解する 2. 論文を端的にまとめられる 3. 論文の内容について批判的にコメントできる				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	70%	<p>なお、レポートの作成に当たっては下記の注意事項を守ってください。 【注意事項】 1. 段落は最低5段落で構成してください。5段落以上あってもよいですが、以下のような展開としてください。段落1（導入）では、自分が議論するトピックを紹介し、全体を通してどのような議論を展開するのかを述べてください。段落2から段落4の各段落では、引用する文献を取り上げ、内容を紹介してください。紹介する際はその文献が自分の議論するトピックとどのような関連があるのか、どういった意義がある文献なのか、どういった点が不十分なのかという要素のすべてを取り上げてください。段落5（最終段落）では、段落1から段落4までの議論をまとめ、再度自分の議論を提示して、議論をまとめてください。5段落以上の場合は、段落2~4を2~5などと適宜読み替えてください。 2. 論文の記述を直接引用しないでください。かならず自分が取り上げるトピックに関連する議論を自分のことばで言い換えて、引用は間接引用に留めてください。 3. 引用した文献は{社会学評論スタイルガイド, https://jss-sociology.org/bulletin/guide/}にのっとりた文献引用や参考文献表記をしてください。 </p>			
・授業内発表	30%				
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				

・その他	0%	
------	----	--

授業科目	社会学演習 4 (社会理論) (春期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	辰巳 伸知		シラバスグループ	TC3219	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	フランクフルト学派の学説史的な位置づけについて
---------	-------------------------

■授業の概要	本講義では、フランクフルト学派の社会理論上の特質に迫るために、その学説史的背景について講義する。具体的には、古典的マルクス主義や教条化した「正統」マルクス主義、さらには西欧マルクス主義とフランクフルト学派の関係に言及し、フランクフルト学派の社会理論にウェーバーやフロイト、ニーチェの学説がどのように関与したのか、また二度の大戦とファシズムの猛威がどのように影響を与えたのか、という点について考察する。また、フランクフルト学派第一世代以後の社会理論的展開、特にハーバーマスやホネットが切り開いた新機軸について解説する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	フランクフルト学派の批判的社会理論の全体像を可能な限り明らかにすることを目的とする。マルクス主義的社会理論と非マルクス主義的社会理論の関係、ならびにマルクス主義的社会理論内部の対立と問題点、現代社会についてのとらえ方の相違や社会科学の方法論についての対立について明確な理解に達することを目標とする。
------------	---

■到達目標	批判的社会理論の根幹を理解すること。
-------	--------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	50%	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50%	

授業科目	ソーシャルマネジメント演習1（環境）（春期（大学院））Aクラス_ 対面			単位	2.0
担当者	林 隆紀		シラバスグループ	TC3519	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	生活者の視点からプラスチック問題を考える				
■授業の概要	大規模気候変動による異常気象災害、エネルギー危機問題、自然循環を外れた廃プラスチック問題、これらはすべて20世紀後半に登場した化石資源による化学工業の急発展がキーアイテムとして繋がっている。そのためソーシャルマネジメントを考えるうえで、基本的な自然科学の知識の理解と現実社会の在り方なしには正しい議論が行えない。そこで本講義では基本的な自然科学知識を確認しながら、現代社会が抱えているプラスチック問題にアプローチする。				
■授業の目的・ねらい	（1）現代社会において、環境・エネルギー・資源の現状を理解する。 （2）上記3つの視点を踏まえて、プラスチックの材料としての性質について理解する。 （3）正確な科学的知識に基づいてプラスチック問題を考察する。				
■到達目標	（1）プラスチックの性質について、科学的知識を用いて正しく説明できる。 （2）現代社会におけるプラスチック材料の役割と課題を正しく説明できる （3）国際的な取り組みの現状を理解し、廃棄物政策について議論できる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	40	スクーリング授業内で学習した内容を踏まえての課題レポートを課す			
・授業内発表	30				
・授業内試験	0				
・授業内課題	30				
・その他	0				

授業科目	ソーシャルマネジメント演習2（環境）（春期（大学院））Aクラス_ 対面			単位	2.0
担当者	水上 象吾		シラバスグループ	TC3719	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	人々の希求意識に基づく都市における緑の環境計画				
■授業の概要	都市では自然要素が乏しく人々の希求意識が高いことから、緑環境の整備は都市政策において重要な課題である。 本講義は、都市における緑の環境評価を取り上げ、どのように環境を測るのか、環境指標を紹介する。また、都市の居住環境の変化に対し、住民の自然に対する認識や行動がどのように作用するのか、緑の需要や効果について学ぶ。庭園や公園の成り立ちから人と環境の関係を考え、都市という限られた空間において自然を享受していくためにはどうすればよいかを考える。そして、未来の都市ではどのような環境づくりを行っていったらよいかを考える。				
■授業の目的・ねらい	自治体等の緑の環境計画について知り、現在の都市環境の状態や問題点を把握するとともに、評価や対応方法を考える。 環境の範囲の違い、時系列の影響や環境計画の目的を考慮し、具体的に環境を評価する視点を持つことを目的とする。より望ましい環境づくりのためにはどうしたらよいか、自ら考える力を養い政策へいかせる提案を行う能力を伸ばすことを目標とする。 成績評価については最終講義後に行うレポート課題によって評価する予定である。				
■到達目標	日頃何気なく見ている身近な環境や地域社会に興味をもち、日常の自分の行動や意識は環境からどのように影響を受けているのか客観視する。現状では何が問題か、より望ましい環境づくりのためにはどのようにしたらよいか、を考える。既存の文献資料を読み解き、考察を深める能力を身につけることを目標とする。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	100	与えられた課題に関して、「論題が明確か曖昧か」、「構成が論理的か」、「議論（主張がきちんとされているか）」、「リサーチ（適切な資料を見つけ用いているか）」、「創造性（テーマの選択や取り扱いに独自の見解があるか）」による判断を行う。			
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	ソーシャルマネジメント演習3（地域）（夏期（大学院））Aクラス_ 対面			単位	2.0
担当者	河内 良彰		シラバスグループ	TC3529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	フィールドワークで学ぶ京都の産業観光				
■授業の概要	本授業は消費する側からではなく当地の生産する側、住民の視点で京都の観光地を理解する。組織運営の現状や産業文化財の特徴や改善点などを観察して回り、地域社会の変遷や開設によって住民生活の利便性がいかに向上したかなどを把握する。地域社会の産業構造と働き方がいかに変化しているかについて生産者や住民の目線で学修する。				
■授業の目的・ねらい	フィールドワークを通して、観光産業の担い手に多様な働き方が生まれ、地域住民の生活環境が拡充している現状理解をねらいとする。オーディエンスを意識した発表方法も学び、集団討議に依拠したフィールドワーク力と現代社会を分析する能力を体得することを目指す。				
■到達目標	【知識・理解の観点】フィールドワークの手法を実践に基づいて体得する。 【思考・判断の観点】調査の信頼性、妥当性、一般性を高める方法を考察する。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	90				
・授業内発表	0				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	10	出席、発言、ディスカッション			

授業科目	ソーシャルマネジメント演習4（地域）（秋期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	金 佑榮		シラバスグループ	TC3839	
開講年度	2026	開講学期	後期	履修方法	ST
■授業のテーマ	資本主義の歴史とは「過去」と「現在」そして「未来」の歴史である。				
■授業の概要	資本主義を理解するには、まずその歴史的考察が不可欠である。本講義では、世界史の流れの中で、資本主義の変遷をたどることより、これまで自明のものとしてあった資本主義の本質をつかみ、予測不可能な未来を切り開くために必須の教養を身につける。また、資本主義はなぜ限界にむかっているのか、資本主義と持続可能な世界は両立するか、ポスト資本主義とは何かなど、なまざまなテーマについて受講生と共に議論してみたい。				
■授業の目的・ねらい	資本主義そのものを歴史的・哲学的・経済学的に考察するための基礎を学ぶ。				
■到達目標	資本主義のしくみやその歴史を理解し、資本主義自体への関心や、自分自身の問題意識を高める。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	40%	「試験」の詳細については、スクーリング実施日に公開する。			
・レポート試験(SR履修)	0%				
・授業内発表	30%	「事前課題」として作成した担当箇所のレジюмеに基づき発表を行う。			
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				
・その他	30%	「事前課題」として、スクーリング実施前（およそ2~3週間前）に教員は履修者にテキスト内容の一部を報告できるよう担当箇所を決め、レジюмеの作成を求める。履修者は、スクーリング実施前日までレジюмеを作成した上で、スクーリングに参加する。			

授業科目	社会調査論（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	山口 洋	シラバスグループ		TC7139	
開講年度	2026	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	「創造の方法学」
---------	----------

■授業の概要	『創造の方法学』（高根正昭著、講談社新書、1979年）を輪読して、調査・研究法に対する理解を深める。
--------	--

■授業の目的・ねらい	調査・研究法は、ある分野での調査・研究活動の積み重ねの中で取捨選択され、改良され、人から人へ伝えられて広まり、定着していくものである。調査・研究法のテキストの多くは、そうして出来上がった「完成品」を我々に簡潔に示してくれる。しかしそうした「完成品」に触れるだけで、なぜそうした方法が必要とされるに至ったのかを真に理解することは難しい。そのためには、現在多くのテキストで推奨されている方法論が作られ、広まり、定着するに至った過程を追体験するのがよい。その点、『創造の方法学』（高根正昭著、講談社新書、1979年）は、日本の大学で社会調査法・社会学研究法があまり教えられていなかった1960年代に、著者が米国の大学で方法論（量的・質的データの収集・分析法）を学んで受けた衝撃を、読者が追体験できるように書かれている。この書物を輪読して、調査・研究法に対する理解を深めたい。
------------	--

■到達目標	テキストの各章の内容のうち、調査・研究とは何か、いかにあるべきかに関する部分を自分なりに理解・消化すること。それをふまえて自分ならどんな調査・研究をするかを考えることが目標です。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	40%	授業時間内で作成・発表したレジュメを必要に応じて加筆・修正の上、それをレポートとして提出してもらいます。
・授業内発表	60%	テキストの担当箇所を読み、レジュメを作成し、発表します。これを全て授業時間内に行います。
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	地域公共政策論（通年（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	上田 道明		シラバスグループ	TC7209	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S
■授業のテーマ	政策立案・合意形成入門				
■授業の概要	行政に限らない、様々な立場からの政策提案が求められる現代にあつて、問題解決に資するだけでなく、幅広く合意を得ることのできる政策立案の手法を学ぶ。単に自らが正しいと考えるだけでなく、客観的に見ても問題解決が期待できる、また多くの賛同者を得ることのできる政策はどのようにすればデザインすることができるのかを考える				
■授業の目的・ねらい	①行政だけに政策立案を任せることの限界を理解する。 ②政策の実効性をチェックする技術を学ぶ。 ③幅広い合意を得るために、ステークホルダー分析を行い、合意形成のために必要なことを想定してみる。				
■到達目標	①政策立案に必要なスキルを身につける。 ②合意形成に必要なプロセスを理解する。 ③（自分が作成したものに限ることなく）政策一般の評価ができるようになる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	0%				
・授業内発表	70%	報告だけでなく、質問やコメントに対するリプライもあわせて評価します。			
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				
・その他	30%	同僚の報告に対する質問、コメントから講義内容の理解度を評価します。			

授業科目	地域公共政策演習1 (通年 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	阿部 慶徳		シラバスグループ	TC7309	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	分権型社会における地方自治
---------	---------------

■授業の概要	自治体は教育、福祉、公共資本の整備など私たちの日常生活に関わりの深い政策分野の多くを担っている。この授業では、地方自治の重要性と歴史的な経緯を学び、そのうえで自治体の統治構造と財政システムに対する理解を深めていく。さらに、近年における自治体行政改革の取組みを検討するとともに、行政と地域社会との連携のあり方や地方自治制度の課題と今後の展開の方向性について学習する。 演習日は、7月4日(土)、11日(土)、18日(土)の1~5限の時間帯とする。対面を基本とするが、一部をオンライン授業とし、オンデマンド授業を取り入れる場合がある。 演習日のいずれかに、公的機関等にヒアリング等を行う予定である(基本、Zoom等でのオンライン対応)。詳細については、事前に受講者にメール等で周知する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	民主政治の基盤としての地方自治の仕組みを学び、地域社会と自治体が直面する課題、今後の方向性などを考察する。
------------	---

■到達目標	①現代社会における地方自治の意義と役割、歴史的経緯、地方自治の類型について説明できるようになる。 ②自治体の統治と財政のシステム(地方公務員制度を含む)に関する理解を深める。 ③わが国の地方自治が直面している課題を把握するとともに、今後のあり方について議論を展開できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	50%	毎回の授業における予習状況、発表の内容、質疑応答を評価する。
・授業内試験	0%	
・授業内課題	50%	具体的な課題は授業中に指示する。課題を提示した時点における授業内容の理解度の判定を目的とする。
・その他	0%	

授業科目	地域公共政策演習2（通年（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	大橋 松貴		シラバスグループ	TC7409	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	近畿圏における伝統産業のフィールドワーク
---------	----------------------

■授業の概要	わが国では、多くの地域で長い年月をかけて洗練されてきた伝統工芸品が数多く存在する。近畿圏に目を向けると、滋賀県彦根市を中心とした彦根仏壇産地で製造される「彦根仏壇」がある。彦根仏壇は1975年にわが国の仏壇業界ではじめて通商産業大臣指定伝統的工芸品に指定されており、その技術や品質は高い評価を受けている。この授業では、彦根仏壇産地で活動する長寿企業を対象としたフィールドワークを行い、伝統産地における長寿企業の現状を理解し、現代におけるマネジメントのあり方について考察する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	彦根仏壇産地で活動する長寿企業でのフィールドワークを通して、対象企業の方針とそれに基づく活動、および課題について理解する。また、事前準備やフィールドワークなど授業で得た知識や経験を他者にわかりやすく伝える能力を養うことを目指す。
------------	--

■到達目標	フィールドワークに関する技法を実践を通して習得する。 授業内で得た知識や経験を他者にわかりやすく伝える能力を習得する。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	100%	毎回の授業への参加姿勢や活動内容等を勘案し、総合的に評価する。

授業科目	地域公共政策演習3 (通年 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	野崎 敏郎		シラバスグループ	TC7509	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	中山間地域の地域振興策
---------	-------------

■授業の概要	この授業では、テキスト学習によって、中山間地域にかかわる諸問題・諸課題を整理する。また、南丹市美山におけるフィールドワーク、またはそれに代わるヒアリング等を実施し、中山間地域における地域振興の取り組みについて、聴き取り調査を行う。ここでは、地域資源の活用、都市―農村交流の推進、地域における人材の育成、地域社会の持続的活性化の方策などがテーマとなる。そして、テキスト学習とフィールドワークとを関連づけ、ディスカッションを実施することによって、中山間地域における有効な取り組みのありかたを探究する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	テキスト学習、フィールドワーク、ディスカッションを通して、地域社会における問題を解決するためのプロジェクトを主導的に発動し遂行できる能力を獲得する。
------------	--

■到達目標	受講者が、テキスト学習、フィールドワーク、ディスカッションを通じて、地域社会における問題解決にかんする有益な知見を得て、必要な方策を探り、その解決のための手法を提示し、それを実践する能力を獲得する。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	50%	成果発表会での発表と質疑応答の内容に即して評価する。
・授業内試験	0%	
・授業内課題	50%	フィールドワークの成果のまとめとなる課題レポート
・その他	0%	

授業科目	社会福祉学研究基礎Ⅰ（春期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	緒方由紀、小池桂、朴光駿、伊部恭子		シラバスグループ	WB0119	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	社会福祉研究の基礎—社会福祉学の基礎知識、基礎理論の修得および社会福祉研究の基本姿勢の形成
---------	---

■授業の概要	本授業は、社会福祉学における研究の基礎的枠組みと方法を体系的に理解し、研究遂行に必要な視点・技法・倫理について学ぶ。15回の授業をとおして、先行研究レビュー、社会科学の見方や批判的思考、研究倫理、政策・実践・理論における研究の視点など研究の基本姿勢を身につけ、各自の研究テーマの設定、研究計画書の作成につなげていく。なお、本授業は通学課程と合同で実施する。修士課程入学者は必ず受講すること。
--------	---

■授業の目的・ねらい	受講生が社会福祉研究の基礎となる知識・視点や理論課題を理解し、修士論文の作成に向けた各自の研究力の基礎を形成することを目的とする。 (1) 受講生が社会福祉研究を進めるうえで、欠かすことのできない基本的事項と観点を学び、社会福祉の基礎を身につける。 (2) 社会福祉研究の基礎としての社会科学のものの見方・考え方を歴史、社会構造、思想・人権などに関わらせて学ぶ。 (3) さまざまな先行研究に触れることで、今日的な理論課題をつかみ、各自の研究の足掛かりや課題把握の視点をつかむ。 (4) 研究計画を作成するうえでの基本的視点と方法を理解するとともに、研究遂行に不可欠な研究倫理を理解し、適切で厳正な研究姿勢をもって研究に取り組むことをねらいとする。
------------	--

■到達目標	到達目標は以下のとおりである。 1. 社会福祉研究の基礎としての社会科学のものの見方・考え方の重要性を、自らの研究テーマに関わらせて説明することができる。 2. 社会福祉理論研究における主要な先行研究から学び、今日的な理論課題をつかみ、各自の研究のもつ意味について説明することができる。 3. 社会福祉研究を進めるうえで不可欠な基本事項と観点についての説明に加え、研究的な問いを立てることができる。 4. 研究計画を作成するうえでの基本的視点と方法を理解するとともに研究遂行に不可欠な研究倫理を身につける。修士論文作成に向けた基本事項を理解し、各自が研究計画書を作成できるようになると同時に、研究倫理を厳守できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	100	15回の授業を通じて学んだ内容を自身の問題意識にひきつけまとめるレポートを課す。
・レポート試験(SR履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	児童福祉特殊研究(夏期(大学院))Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	伊部 恭子		シラバスグループ	WB2229	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	児童福祉研究の視点と方法ー子どもの権利をふまえてー				
■授業の概要	社会福祉学において、児童福祉を研究する意味と意義、児童福祉に関する基礎理論、基礎知識を学び、子どもの権利擁護の観点に立脚した児童福祉の課題と可能性を探る。				
■授業の目的・ねらい	社会福祉学の一つの領域・分野における児童福祉研究において、その固有性とともに、社会福祉学としての共通する基盤について理解を深めることを目指す。また、児童福祉研究の視点、方法、対象等について、基礎理論および先行研究等から学びを深める。				
■到達目標	社会福祉学の一つの領域・分野における児童福祉研究において、その固有性とともに、社会福祉学としての共通する基盤について理解を深め、説明できるようになる。また、児童福祉研究の視点、方法、対象等について、基礎理論および先行研究等から学びを深め、修士論文等自己の研究に活かすことができるようになる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50				
・授業内発表	50				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	障害者福祉特殊研究(夏期(大学院))Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	孔 栄鍾		シラバスグループ	WB2329	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	福祉政策における「障害者 65 歳問題」
---------	----------------------

■授業の概要	<p>現行の介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係では、福祉サービスを利用してきた障害者が 65 歳を迎えることで介護保険制度の対象となり、介護保険制度への利用移行が余儀なくされている。この原則により、当事者にとっては自己負担の増加やサービスの質の低下、生活環境の変化などの問題がもたらされており、いままで営んできた「自立生活」が崩れてしまうという生活問題が惹起されている。それゆえに当事者や関係者からは、相違する目的を持つ両制度間の適用関係において「なぜ介護保険優先なのか」、「介護保険優先適用の考え方が理解不能」であるとの声が高まっており、改善を求める当事者の抵抗運動が広がっている。本講義では、こうした福祉政策における障害者の 65 歳問題に関して、その問題状況と政策課題について考察して見る。</p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>障害者の高齢化が進むにつれて、介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係をめぐる問題はますます重大な福祉問題になりつつある。本講義では、介護保険制度と障害者福祉制度との適用関係をめぐる問題の根本的な原因を解明しながら、それが示唆する現行の福祉政策における問題点と課題について一緒に考えてみたい。</p>
------------	---

■到達目標	<p>障害者の 65 歳問題について、その根底にある現行の福祉政策の問題を理解し、問題の解決に向けた課題を自ら論じることができるようになる。</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	70	レポート試験にて実施する
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	
・その他	0	

授業科目	高齢者福祉特殊研究(春期(大学院))Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	新井 康友		シラバスグループ	WB2419	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	高齢者の孤立死(孤独死)に関する研究				
■授業の概要	今後、一人暮らし高齢者の増加に伴い、ますます孤立死(孤独死)が増加することが予想される。しかし、孤立死(孤独死)問題は研究途上にあり、孤立死(孤独死)の定義も明確になっていない。そのため、孤立死(孤独死)の実態把握もできていない。また、孤立死(孤独死)対策も確立していない。そこで本講義では、高齢者の孤立死(孤独死)の実態と予防対策について検討する。				
■授業の目的・ねらい	昨今、マスコミ等は孤立死(孤独死)を社会問題として取り扱うようになった。しかし、孤立死(孤独死)の現象や形態だけが話題になることが多い。そこで、本講義では孤立死(孤独死)問題の本質について理解する。				
■到達目標	孤立死(孤独死)が起きた背景について説明することができる。また、孤立死(孤独死)問題の本質についても説明することができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	50%	レポート試験で講義・演習の理解度を評価する。			
・授業内発表	50%	授業内での発表と参加度を評価する。			
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				
・その他	0%				

授業科目	精神保健福祉特殊研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	緒方 由紀		シラバスグループ	WB2529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	精神保健医療福祉における歴史的・政策的課題と実践の展開
---------	-----------------------------

■授業の概要	日本における精神保健福祉活動の成立と歴史的展開について、資料文献を通して政策的課題の検証を行う。さらに、精神保健医療福祉領域における今日的広がりや、事業・組織・機関など多面的サービスの実態をとりあげ、当事者や家族のみならず援助専門職の業務、価値、倫理にも大きな影響を与えていることに着目する。本クラスでは、各自の報告およびディスカッションをとおして、実践と政策に対する研究的理解を深める。
--------	--

■授業の目的・ねらい	精神病患者への歴史的理解を踏まえながら、日本の精神保健医療福祉の成立やその後の展開を整理する。さらにそれらを基に医療福祉実践における価値、倫理、知識、技術等について検証を行う。精神医療、精神保健、ソーシャルワークの政策的・実践的整理を行うとともに、日本の専門職制度とソーシャルワーク教育の課題を明らかにする。 成績評価は、各自の報告およびディスカッションなど総合的に判断する。
------------	--

■到達目標	精神保健医療福祉領域に関する基本的視点を法制度や文献資料と共に読み解く力を獲得する。さらに受講生の研究的関心とあわせて、本領域における課題や問題点を掘り下げ、全体での議論を深め、検証する力をつけることを目標とする。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	70%	文献資料の読み込み、論点の整理、考察等、レポートとしてのまとまりとあわせて評価する。
・授業内発表	30%	事前課題の報告の内容（レジュメ、発表、討論等）をもとに評価する。
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	医療福祉特殊研究（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	村上 武敏		シラバスグループ	WB2639	
開講年度	2026	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	医療福祉の課題を明らかにする
---------	----------------

■授業の概要	<p>バブル経済崩壊後の景気低迷と経済のグローバル化、そして世界的な新自由主義の潮流のなかで日本においても1990年以降、非正規雇用が拡大するなど雇用は著しく不安定化してきている。しかし、これに対処すべき公的年金、医療、介護、生活保護など社会保障制度には不備があり、社会保障制度審議会1995年勧告に象徴される社会保障理念の転換と、その後の制度改革により、ますます貧困化に歯止めをかけられない制度になってきている。そのなかで医療ソーシャルワーカーは、特に1990年代以降の医療制度改革の影響により、社会科学的な対象認識を見失ってきたように見受けられるのである。 本授業では、特に1990年代以降における国民生活と社会保障、そして医療ソーシャルワーカーの実践の変化をとらえつつ、今日における医療福祉の課題を総合的に明らかにしていきたい。</p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>医療福祉とは何か、それを医療福祉の歴史、国民生活と社会保障の動向、医療福祉の対象者の生活実態を踏まえて明らかにしつつ、今日における医療福祉の対象および方法をめぐる課題を総合的に明らかにする。</p>
------------	--

■到達目標	<p>・国民生活、社会保障、医療ソーシャルワーカー業務の変化について理解する。 ・医療福祉の対象者の生活実態について理解する。 ・医療福祉の対象と方法について理解を深める。 ・医療福祉の課題を総合的に明らかにする。</p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	50%	
・授業内発表	50%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	地域福祉特殊研究（夏期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	金田 喜弘		シラバスグループ	WB2729	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	地域福祉の主流化時代における政策動向を分析し、今日の地域福祉実践のあり方を考える
---------	--

■授業の概要	地域福祉理論および地域福祉実践の展開過程を踏まえながら、今日的な地域福祉の課題とその解決に向けたアプローチについて、演習形式で学ぶことを目的とする。地域福祉は、制度や施策として与えられるものではなく、地域に暮らす人々の生活課題や願いを起点に形成されてきた実践の蓄積である。本講義では、地域福祉理論（コミュニティワーク、地域包括ケア、地域共生社会など）を基礎に、住民主体の実践、専門職の役割、多職種・多主体連携のあり方を検討する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	本授業では、地域福祉理論の基礎的枠組みを理解及び、地域福祉実践の多様な形態を理解し、理論との関連から分析する。また、具体的な実践事例を通して、住民主体・専門職支援・制度の関係性を多角的に捉える視点について学びを深める。
------------	---

■到達目標	・ 地域福祉理論の基本的概念を理解し、自分の言葉で説明できる ・ 地域福祉実践を理論と関連づけて分析できる ・ 住民主体と専門職支援の関係性を整理して捉えられる ・ 地域の生活課題を基に、地域福祉のあり方を構想できる ・ 社会福祉専門職として地域に関わる意義と姿勢を説明できる
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	80	
・授業内発表	20	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	現代社会福祉問題特殊研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	加美 嘉史		シラバスグループ	WB2829	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	「貧困」と自己責任論—その歴史・構造とソーシャルワーク・福祉労働の課題—
---------	--------------------------------------

■授業の概要	<p>非正規雇用やワーキング・プアの増大を背景に貧困問題への関心は高まっているが、その一方で”生活保護だけは受けたくない”という人々や貧困を自己責任と考える人々が多い。自己責任論の浸透は、社会的に生み出される貧困を個人・家族問題に閉じ込めて「助けて」という声を出すことを困難にし、生存権である生活保護制度の利用を妨げる要因となっている。 このような問題意識から本授業では、 ①現代社会における「貧困」と「自己責任論」的価値規範の関係について、国際比較調査や地域調査（量的・質的調査）をもとに検討する。 ②「貧困の自己責任論」について歴史的視点から検討を行い、自己責任論および能力主義的価値規範が生み出され、浸透していくプロセスを検討する。 ③そのうえで、今日的生活保護や生活困窮者自立支援などで行われている「自立支援」の現状を分析し、政策的言語としての「自立」と「自立支援」の課題を考察することから、現代社会における「自立」と「依存」の関係性を再検討する。 ④そして今日、なぜ生活保護利用者ら貧困状態にある者がハッシングされるのか、資本主義社会の構造や新自由主義的政策との関係から検討を行う。 ⑤これらの考察をもとに、現代の貧困問題にソーシャルワーク・福祉労働は何ができるのか、検討を行う。 </p>
--------	---

■授業の目的・ねらい	<p>1. 地域社会に表出する「貧困の自己責任論」の現状、その背後にある構造を理解する。 2. 「貧困」の概念を理解し、現代社会における「貧困」を捉える視角・視点を理解する。 3. 「自立」概念の歴史的変遷から「自立」と「依存」の関係性とその変容を理解する。 4. 生活保護行政及び生活困窮者に対する「自立支援」の検討を通して、生活保護行政及び生活困窮者支援における「自立観」と「自立支援」の現状と課題を理解する。 5. 現代社会に広がる貧困と自己責任論に対するソーシャルワーク（福祉労働）、ソーシャルアクション、「自治」の価値について理解する。 </p>
------------	--

■到達目標	<p>1. 「貧困の自己責任論」が生み出される歴史的背景・構造について理解し、説明できるようになる。 2. 「貧困」の概念を歴史的変遷をふまえて理解し、現代社会における「貧困」を捉える視角・視点を理解する。 3. 「自立」概念を歴史的変遷をふまえて理解し、「自立」と「依存」の関係性がどのように変容したかを説明できるようになる。 4. 今日の政策的言語としての「自立」「自立支援」の現状を理解し、生活保護利用者や生活困窮者の「自立観」と「自立支援」の課題について説明できるようになる。 5. 自己責任論を乗り越えていくために、ソーシャルワーク（福祉労働）の役割、ソーシャルアクションの課題について考察し、説明できるようになる。</p>
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	90	
・授業内発表	10	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	乳幼児保育特殊演習（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	井上 洋平		シラバスグループ	WB3119	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	乳幼児を発達的に理解する視点を土台にしつつ、子どもが自由に生活する保育や教育の営みを捉えなおす。				
■授業の概要	本演習では、乳幼児を発達的に理解するために必要な視点を、古典的研究と言われるものから近年の研究に至るものまでを取り上げながら学んでいく（グループワークや文献の講読を含む）。さらに、多様な姿を示す子どもたちの個性と相互性を両立しうる新たな保育や教育のあり方にかかわる各種データや文献に触れながら、多様性・公平性・包摂性の社会についても検討を進めていく。				
■授業の目的・ねらい	乳幼児の視点から子どもの経験世界を考えることを基盤に、個性と相互性が両立し、多様性・公平性・包摂性が成立する保育に求められる要点を探っていくことを目的とする。そのような探究を通じて、新たな社会を展開していく主人公となる乳幼児期の子どもの保育（教育を含む）のあり方を構想していくことをねらいとする。				
■到達目標	・大人の視点（自己中心性）を脱却して乳幼児の姿を理解する視点を身につける。 ・複数の観点から対象や事象にアプローチしつつ包括的に把握する視点を身につける。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	70				
・授業内発表	20				
・授業内試験	0				
・授業内課題	10				
・その他	0				

授業科目	児童福祉特殊演習（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	武内 ー		シラバスグループ	WB3219	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	子どもの権利擁護に関わる6つの課題				
■授業の概要	この演習では、子どもの権利擁護に関わる課題を6つ提示して、一緒に考えてみたいと思います。 1つ目は子どもの貧困問題、2つ目は子ども虐待、3つ目は乳児死亡率、4つ目は不登校の拡大、5つ目はヤングケアラーの問題、最後は子どもの自殺です。				
■授業の目的・ねらい	最終的には、子どものもつ「ケイパビリティーの最適化」を軸に、子どもの権利を理解していけたらと思っています。この言葉も日本語で適切に表現したいのですが、うまくできていません。参加する皆さんの知恵もお借りしたいです。				
■到達目標	目指すものにあるように、最終的には、子どものもつ「ケイパビリティーの最適化」を軸にした相互の理解にあります。議論してお互いの理解を深めて、社会変革へのアイデアを出しましょう。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	50				
・授業内発表	50				
・授業内試験	0				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	障害者福祉特殊演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	田中 智子		シラバスグループ	WB3329	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	障害者・家族の生活問題に関する研究的理解の方法と視点				
■授業の概要	障害者・家族の生活問題は多岐にわたり、先行研究においては、ストレス、負担感、障害受容等 様々な側面から把握が試みられてきた。先行研究をレビューすることで、それぞれの視点・方法 の到達点と課題を理解する。そのうえで、生活問題を「貧困」という視点から再整理し、障害者・家族の貧困についての理解をを深める。また、生活問題を把握するための方法論についても理 解を深めることとする。				
■授業の目的・ねらい	先行研究をもとに「毎回の授業テーマ」で示す諸点の実践的・理論的課題について検討を深める				
■到達目標	授業の目的で示した各項目について、自らの問題意識に引き付けた独自の考察ができること				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0				
・レポート試験(SR履修)	70				
・授業内発表	0				
・授業内試験	30				
・授業内課題	0				
・その他	0				

授業科目	高齢者福祉特殊演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	朴 光駿		シラバスグループ	WB3439	
開講年度	2026	開講学期	後期	履修方法	ST
■授業のテーマ	高齢者ケアの思想と介護保険制度				
■授業の概要	<p>講義は次の3つの部門からなる。(1) 高齢者観とケアの思想、(2) 介護保険制度の理解、(3) 介護システムの比較。高齢者介護制度の基盤である高齢者観を理解すること、介護保険の基本原則を把握すること、そして日本の介護システムを東アジア比較の観点から理解することを目指す。 基本的な内容と問題点、課題を講義したのち、グループに分かれて、提示するテーマについて議論し、グループでの議論の紹介と報告、それを踏まえた、全体的な討論、を行う。この作業を何度か繰り返すとともに、討論の中で提起された問題を掘り下げるために、必要に応じて講義と討論を組み込みながら進める。 </p>				
■授業の目的・ねらい	<p>本演習の目的は次の3点である。①日本介護政策がその基盤としている高齢者観を確認し、介護問題が家族関係、遺産相続問題、訴訟などにもかかわる問題であることを事例をもって理解すること、②日本の介護保険制度の形成過程と現状を分析し、その本質的課題を明確に把握すること、③日本介護保険と韓国介護保険の比較、中国の高齢者介護システムが日本社会にどのような示唆を与えているのかについて、一定の見解を持つこと。 介護保険制度の分析においては、その成立過程を考察し、「介護保険制度の導入は福祉発展といえるのかどうか」という問いを提起する。介護保険制度の課題としては、管理体制と財政問題、そしてケアマネージャ制度の課題について論議する。 講義と討論を通して、受講生には本演習で取り上げられる各テーマについて、理解することだけを求めるのではなく、「3分スピーチ」の形でみずから見解が示せることを求める。</p>				
■到達目標	<p>高齢者観と介護政策との関係性、介護問題の社会性を理解すること、介護保険制度にかかわる本質的問題について一定の見解を持つこと、日本の介護保険・介護システムを国際比較の観点から把握すること。</p>				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	60%				
・授業内発表	20%				
・授業内試験	0%				
・授業内課題	0%				
・その他	20%	質問と討論			

授業科目	精神保健福祉特殊演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	江本 純子		シラバスグループ	WB3529	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	精神保健福祉に関する法と政策の批判的検討				
---------	----------------------	--	--	--	--

■授業の概要	授業では、まず、講師が問題提起をし、その後、参加学生がそれぞれの問題関心に従った発表・討論をします。授業では、はじめに講師が現代の労働現場で生じている問題を精神保健福祉を切り口にして報告します。その後、学生がそれぞれの興味関心に基づいてみずからの研究テーマや身近に生じている問題を研究し、発表・討論を行います。				
--------	---	--	--	--	--

■授業の目的・ねらい	この授業の到達目標は、以下の通りです。 1（知識・技能）精神保健福祉の視点について理解する。現代社会において多様化した精神保健福祉のニーズをミクロ・メゾ・マクロのレベルで説明できる。 2（思考・判断・表現）現代社会で生じているさまざまな問題を「ひとのこころと社会のありかた」との関連で指摘できる。「現代社会におけるひとの幸せ」について考察し、その内容を表現できる。 3（主体性・共同性）現代社会における精神保健福祉課題を理解し、包括的な精神保健福祉システム構築に活用できる。				
------------	---	--	--	--	--

■到達目標	精神保健福祉の視点について理解するしたうえで、現代社会で生じているさまざまな問題を「ひとのこころと社会のありかた」との関連で指摘したり、包括的な精神保健福祉システム構築に活用できる。				
-------	---	--	--	--	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	医療福祉特殊演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	高木 健志		シラバスグループ	WB3639	
開講年度	2026	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	いのち、暮らし、平和を希求する医療福祉の実践と質的研究
---------	-----------------------------

■授業の概要	新型コロナウイルス感染拡大、度重なる自然災害、震災による原発被害者、紛争や戦争による被害者の問題など医療を巡るさまざまな社会問題が身近に生じている。こうした状況から医療福祉では、疾病を個人の責任にとどめず、社会的な背景や環境要因にも目を向け社会に働きかけるソーシャルワーク専門職の養成が求められている。本演習では、グリーケアをはじめ医療と患者とに焦点を当てる。 また、研究方法の中で、特に質的研究法の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の考え方について学び、質的インタビューデータの分析の演習を行う。
--------	--

■授業の目的・ねらい	・医療福祉を巡る社会問題と医療ソーシャルワーク実践について議論できる。 ・質的研究方法の考え方について説明できる。 ・インタビューデータ（仮想）をもとに、分析テーマ、分析焦点者、概念生成を行うことができる。
------------	---

■到達目標	*医療福祉の課題の背景や構造について自分の意見を述べるができる *マクロレベルの医療ソーシャルワークについて説明することができる *質的研究方法の概要について説明できる *質的データの分析方法（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を用いて助言を受けながら分析を行うことができる
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	80%	スクーリングで学んだことについてのレポートを提出する。
・授業内発表	20%	自分の発表だけでなく、他の受講生の意見もよく聞きながら互いに評価しあい、テーマについての深い議論を行う。また、助言を受けながら質的データの分析へ積極的に参加する。
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	地域福祉特殊演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	坂本 勉	シラバスグループ		WB3739	
開講年度	2026	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	高齢者支援を中心とした地域包括ケアシステム構想と、政策分析における課題
---------	-------------------------------------

■授業の概要	<p>まず、福祉の市場化を可能とした社会福祉基礎構造改革（中間まとめ）からの分析を通じて、介護保険制度が導入されたと考えられる。その際、従来措置制度のもとで市町村や都道府県の関りなかで守られていた状況から、民法に基づいた契約型福祉に変更された。このことから、介護保険制度導入時に民法の一部改正を通じて成年後見制度が導入されることとなった。しかし、わが国の成年後見制度は国際社会からも多くの問題を抱えていると指摘されている。今後の法改正を待つしかない状況にあるといえる。しかし、特に高齢期における生活リスクや最低限の権利侵害から身を守るためには、契約能力を有する段階で本人の意思を明確にしておく必要があると考えられ、特に認知症と診断された以降は、本人の意思決定権を判断することは非常に困難になる場合が多い。また、介護保険法に基づく相談機関である「地域包括支援センター」の設置が進められてきたが、日常生活圏ごとに設置目標とし、日本版コミュニティケアを推進する役割が期待されている。ここで、海外でのコミュニティ概念と日本における地域福祉概念にどのような共通項や相違点があるのか。その政策分析を行う上で重要となる。ここでは、日本版ウェルフェアリフォームとしての社会福祉基礎構造の改革の本質理解と、今後の方向性と課題について議論を通じて深めていく。 </p>
--------	--

■授業の目的・ねらい	<p>地域福祉の理想は、年齢・性別・障がいなどを含めコミュニティの一員として相互に助け合いながら福祉の増進を図ることであるといえるが、自助・互助・公助の歴史的展開から現代にいたる現状と課題を分析し、新たな福祉モデルを模索することを目的とする。 </p>
------------	---

■到達目標	<p>以下の3点のうち、1つ以上を説明できることを到達目標とする。 1. 社会福祉基礎構造改革の政策分析とその課題について分析できているか。 2. ゲマインシャフト型社会、宗教的慈善の社会、社会的救済型の社会への特徴と課題を理解しているか。 3. わが国での自治会加入率の変遷から見た、コミュニティケアの課題について説明できるか。 </p>
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	共生とケア I (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	長瀬 正子	シラバスグループ		WB5129	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	子ども領域における共生とケアを考える
---------	--------------------

■授業の概要	1 共生 (ともいき) という考え方を子ども領域において具体的にとらえる 2 共生 (ともいき) とケアの関係性について理解する 3 子ども領域における共生 (ともいき) とケアの実践および研究での現状と課題をとらえる
--------	---

■授業の目的・ねらい	本授業では、子ども領域における共生 (ともいき) とケアとは何か、その関係性、具体的な事象を踏まえ、その現状および課題について考察することを目的とする。その際、子どもの権利の視点を踏まえ、求められる「共生とケア」の在り方を構想する。
------------	--

■到達目標	高い人権感覚を持つことをめざす。 ケアの倫理観を持つことをめざす。 人の自立について具体的に説明できる。 ケアの実際について技法を知る。 公的福祉の重要性について考える。 政治や社会との関連で問題解決の提案ができる。 研究に対する論理的な組み立てができる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0%	
・レポート試験(SR履修)	50%	
・授業内発表	50%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	共生とケアⅡ（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	塩満 卓		シラバスグループ	WB5229	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST
■授業のテーマ	ケアの受け手と家族ケアラー双方の自己実現を志向する「共生とケア」について、ミクロ、メゾ、マクロの3つのレベルから考える。				
■授業の概要	①代表的なケアの定義を確認し、受講生の専門領域から具体的なケアについて考える。②ケア提供者の属性により異なってくるケアの関係性について考える。③ケアのジェンダー問題の背景について考える。④共生型ケアの実践から変容していくケアの関係性について考える。⑤マクロ政策から日本の私事的ケアと社会的ケアについて考える。⑥求められる「共生とケア」の社会像を考える。				
■授業の目的・ねらい	①ケアとは何かを理解し、ケアの互酬性を理解する。②家族、仲間、専門職等の多様なケア提供者によるケア関係とその特徴を理解する。③ケアのジェンダー問題と「ケアすることを強制されない権利」を含むケアの4つの人権を理解する。④共生型ケアとは何かを理解する。⑤エスピン・アンデルセンの福祉レジームから日本のケア提供体制について、理解する。⑥日本ケアラー連盟の活動を理解し、求められる「共生とケア」の社会像を考える。				
■到達目標	①ケアをケアの互酬性について、説明することができる。②多様なケア提供者によるケア関係の特徴を説明することができる。③ケアのジェンダー問題をケアの4つの人権から説明することができる。④共生型ケアについて、説明することができる。⑤日本のケア提供体制の特徴について、説明することができる。⑥求められる「共生とケア」の社会像について、説明することができる。				
■成績評価の基準	割合(%)	備考			
・試験(S履修)	0%				
・レポート試験(SR履修)	80%				
・授業内発表	10%				
・授業内試験	0%				
・授業内課題	10%				
・その他	0%				

授業科目	福祉の国際比較（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	朴 光駿		シラバスグループ	WB5329	
開講年度	2026	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	現代社会政策および歴史的事例から、比較社会政策を学ぶ
---------	----------------------------

■授業の概要	社会科学における比較研究方法を説明し、さらに国際比較の方法を学ぶ。 国際比較とは、歴史的比較も含まれるので、歴史的事例という具体的な素材を活用して比較を行うことで、比較対象国及び日本の福祉制度の本質を理解する。比較対象国としては、イギリス・ドイツ・スウェーデンだけでなく、東アジアの状況とも比較を行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	現代福祉国家の福祉制度だけでなく、福祉国家発達上の事例を用いて比較考察を行うことによって、福祉国家・福祉社会のさまざまな姿を理解し、それぞれの福祉国家に内在する普遍的特質が理解できるようにする。
------------	---

■到達目標	・授業内容を踏まえて国際比較研究の意義および方法が理解できる。 ・各自の問題意識に関連した分析視点が獲得できている。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・試験(S履修)	0	
・レポート試験(SR履修)	100	福祉国家レジーム、ケアラー支援政策についてレポート課題を課す。レポートおよび授業内発表等を評価対象とする。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	